

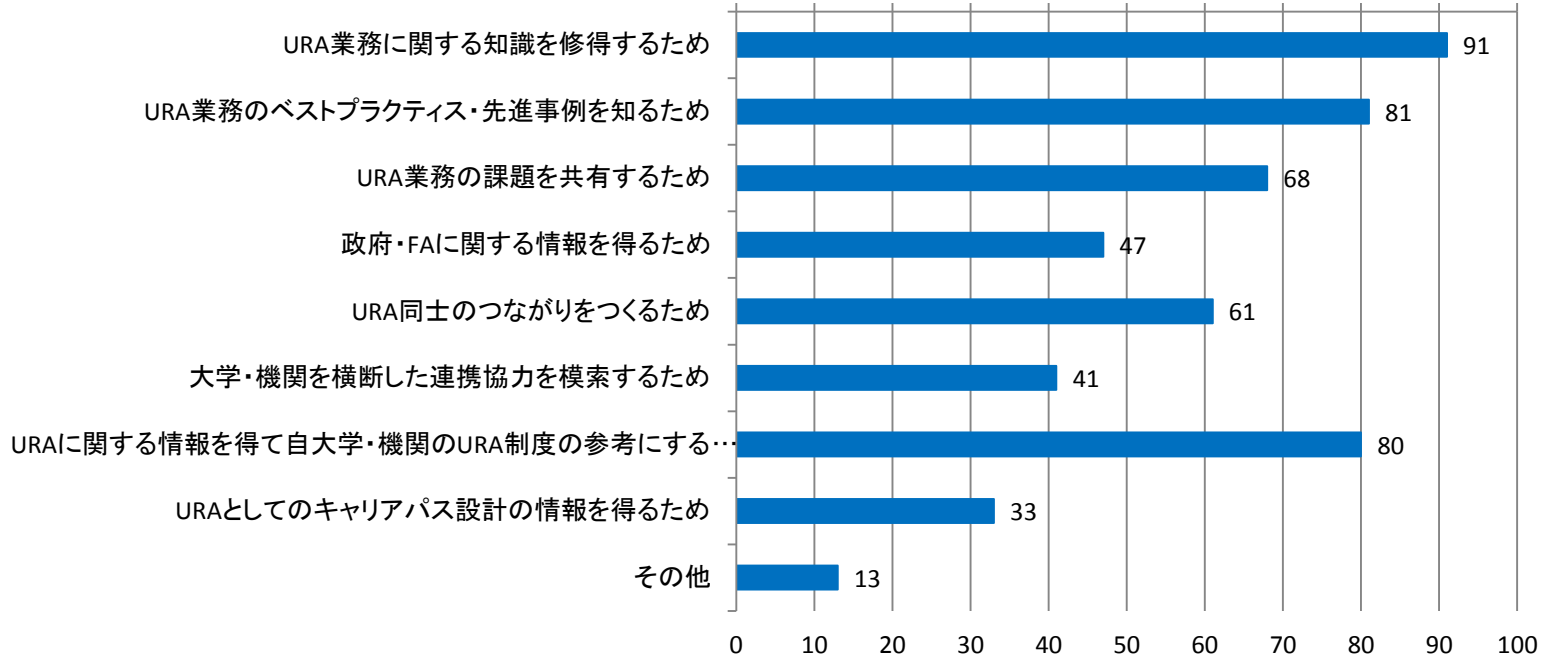
第3回URAシンポジウム

■

第5回RA研究会アンケート

質問1

本日のRA研究会に参加された理由をお聞かせください。(複数選択可)



質問内容	人数
URA業務に関する知識を修得するため	91人
URA業務のベストプラクティス・先進事例を知るため	81人
URA業務の課題を共有するため	68人
政府・FAIに関する情報を得るため	47人
URA同士のつながりをつくるため	61人
大学・機関を横断した連携協力を模索するため	41人
URAに関する情報を得て自大学・機関のURA制度の参考にするため	80人
URAとしてのキャリアパス設計の情報を得るため	33人
その他	13人

質問2

参加されたものに感想をお書き下さい。

●RA-S01: URAネットワークについて考える①～今必要、今やるべき事は何？～

- ・以前から取り組みがなされているURAのスキル基準、育成プログラムを作ることと組み合わせさせて、国内全体の研究推進に資することのできる取り組みとなり得るものと感じられました。本シンポジウムの最初からネットワークの話題はちょっと敷居が高かった気がします。順番として、2日目の各大学のまとめを聞いてからの方が議論ができたかもしれませんね。
- ・ファシリテータに落としどころに係る信念がなかったのではないかな？
- ・定着化のために必要なことは、何をしようとしているかを学内に広く知らしめ、実践から成功事例を多く作り出すこと。
- ・金をとるだけでなく、日本の大学の研究力強化に貢献する志をURAの基本に置くことが大切。
- ・参加者が広範囲のため、議論が初歩的なものとなって、従来の議論に終始した感がある。
- ・論点が曖昧で、まとめも無理やりで、あまり何を問題にし、討論したかったのがわからなかった。
- ・今回は、URA業務従事者に限らず、CD、事務も多数参加されておられたので、URAとは何か？に議論が終始した印象でした。もちろん、原点を掘り下げることが重要ですが、大学の規模によって形態はことなっても方向性やミッションは明確なはずで、URAとは何かを限定化(形式化)する必要はなく、研究力強化に貢献できる仕事の中で、保有人材のスキルを活かせる業務をいかに優先順位を付けて取り組めるか、について各大学は日々試行錯誤しているはずで、よく分かりました。よかったですと思います。URA整備事業(第1期)後のシンポジウム、研究会の継続のためのネットワーク化という方向への恣意的な誘導がひしひしと伝わってきましたが、それはそれとして、各大学でのURAの現状認識やネットワーク化の必要性等を共有でき、有意義でした。
- ・最初に基調講演またはプレゼンテーションを20分ほど行ってから、質疑応答・意見交換会を実施したほうがベターだったのでは。
- ・唐突にオープンワークショップがはじまった感があり、戸惑いました。また、本セッションのテーマの意図しているところがよく分からず、議論が漠然としている印象を受けた。質問票を受け付けるなど、参加人数が多い場にあわせてやり方の方が分かりやすかったのではないかと思います。
- ・方法としては面白かったと思いますが、自分の知識不足か、もう少し別の講演を聞いてから参加すれば、よりよかったですと思いました。
- ・発言者の方々のコメントは、それぞれの大学・個々人の課題を知ることができ、面白かったです。
- ・段取りが良くないのか仕込が悪いのか内容に充実感が感じられなかった。
- ・前の方は年配の方ばかり、URAのことをよく知らない方もいらっしやるようで、後ろの方が若い方ばかりというように、分かれてすわっていらっしやった。
- ・初日の1つ目のセッションでしたが、150名ほどが座るホールでいきなり「ご意見をどうぞ」という形式でスタートしたので、少々面喰ってしまいました…
- ・もう少し規模が小さかったり、会場に馴染んだ2日目とかだったら、もう少し発言しやすかったかな、と感じました。
- ・組織内でのURAの認知度向上、定着化・安定化についての議論が多く、時としてフロアからの意見が「URAは何をするのか？」というところまで遡ることもあり、ファシリテータの思いと噛み合っていないようにも感じられた。大学によってURAの位置づけが異なっていたり、研究力強化に向けてのファンダメンタルズの違いや温度差があることが伺い知れた。
- ・議論が散漫だった。自大学のコンプライアンスを考慮すれば、一般論に終始してしまうのはやむを得ないと感じました。
- ・大学間のネットワークを形成するべきである、という前提でお話が進められていたような印象を受けました。会場からも意見が多く出されていましたが、大学間のネットワーク形成の基盤となるであろう、学内の教職員とのネットワーク形成に対するセッションの位置づけがまず必要だったのではないかと思います。

- ・ネットワークを作ることを前提とした議論が進められたので、どうかと思いました。
 - ・URAの方からの内なる声を知ることができ有意義でした。いろいろな考えの方がいるとの再認識が出来たとともに、今後、大学によって競争する部分と共創する部分を、誰かが明示してあげる必要があるのだと感じました。参加者とのインタラクティブなセッションをするために、YES/NOの札を出してもらったり、その場でアンケート記述してもらうなどのツール的な工夫も必要なのかもしれない。
 - ・今回このシンポジウムに初めて参加させていただき、一つ目のセッションでしたので、どのようなものか少し不安ながらも参加させていただいたのですが、色々な大学の方からの意見を聞かせていただき、現状を知ることができてよかったです。
 - ・ネットワークというものが、具体的にどういうものか分からなかった。(後でネットワーク組織の話があり、分かった)
 - ・現在他大学にてURAをされている方の生の声を聞くことができてよかった。
 - ・いつもと同じような感じで終わったと思います。帰着点が同じになるのは仕方がないことですが。
 - ・産学連携コーディネータとの棲み分け、協同が議論に挙がったが、対立するものではない。この点、一部に神経質なとらえ方をしている方がいることが印象に残った。
 - ・①セッション全体の設計ができていなかった。②なにを行いたいセッションかがわからなかった。
 - ・ネットワークについて、の前の議論、が面白かった。各人がそれぞれURAとしての役割について、どう思っているかをいっぺんに聞くことができた。
 - ・大学内でのネットワークが密になり、その後、学外とのネットワークを作るということでもまとまったと思うが、けっこうな人数が参加している会でうまく進行されたと思う。
 - ・議論の時間を取りたい気持ちは理解できるが、開始がやや唐突の感があったように思います。問題意識や現状認識の説明が冒頭にあっても良かったのではないかと思います。
 - ・ベテランの先生方からかなり厳しいご意見も出されたが、全くその通りとも、感じました。ネットワーク化については、自機関外の皆様とのものも重要だと思いますが、自機関内、また、研究者、事務職等関係者とのものがさらに重要、と再認識いたしました。
 - ・AllJapanのネットワークに真に必要なものについての議論までこぎつけなかったように思う。
 - ・筑波大学の方から提示された議論のベースは「JAPANネットワーク」の構築に向けた話でしたが、まず学内ネットワークの重要性が明らかになったと思います。特に、中小規模校、まだ整備段階の場合においては、より顕著であると思います。学内ネットワークの構築について、より知見を得られると良かったかと思えます。
 - ・「現場で何を指すのか？」問題提起はなされているが、見えてこない。学内ハブ機能の形成は簡単ではないこと。
 - ・ネットワーク形成ありきの議論になっており違和感あり。なぜネットワーク形成が必要なのか、URAの現状、課題を抽出することによりその結果としてURAネットワーク形成が必要というシナリオであって欲しかった。
 - ・国費や税金が投入されているにも関わらず、「URAの定義が定まっていない」と、明確に示して良いのかを疑問に思いました。
 - ・ネットワーク化を議論する前にURA職のあり方、位置づけが問われる、という意見が見受けられたのは最もだと思いました。一方、各大学で状況が違うので、あり方が多様なのも当然かと思えます。本学では、農工大の方がおっしゃった、学長直下のシンクタンク機能を持つ組織として立ち上げられればと思います。
 - ・元々の設計が、意見を発散させることを想定していたと思うので、あれはあれで面白かった。
 - ・人数が多く大変だったと思うが、話の結論がわかりづらかった。単に意見の言い合いになっていたように感じた。
 - ・フリーディスカッションは仕掛けが無いと、活性化しないし、内容が発散する傾向にあるので、事前のストーリーづくり、セッションの企画力が問われる。若干散漫になっていた。
 - ・URAが目指すべき実態が明確でない。定義がわかりにくい。専門職のURAの評価基準を早急に検討すべき。誰にでもできる仕事ではないにも関わらず評価されないのはおかしい。
- 率直な意見交換の場が持てたことは良い事と思うが、URAネットワークを作るという結論ありきで、突然会場に質問された際に戸惑いがありました。もう少し参加者に事前の詳細告知をして頂くか、意見出しを誘導するような流れがあると、もっと充実したように思います。

- ・各大学におけるURAの現状等がよくわかった。URAの役割等、学内の教職員にまず知ってもらうことが大切であると知った。
- ・URAシンポジウムに参加しました(L01,L02,PS01～PS07)。
- ・序盤は、「URAネットワーク設立」に意図が走りすぎる感があったが、会場からの助言を取り入れることで、テーマ①～③を検討するトラックに乗れたと思います。本学はこれからURA制度を立ち上げようとしているため、特に、テーマ①定着に向けて、テーマ②外部資金等の獲得について、が参考となりました。
- ・ネットワークとは具体的にどういったものか、また、その必要性を理解することができなかった。
- ・類似職にて従事している人に対して差別化した印象を覚えました。今回の議論は、類似職の発生した2000年～2006年辺りにも同じような議論が繰り返されているので、もったいないと思います。
- ・キーノートスピーチがないので議論が散漫な印象でした。これから2日間どうなるのか不安になりました。
- ・このセッションは難しいと思うので、ファシリテーターの方は上手く進行されていた。ただ、同じ議論が繰り返されている。新規参入者は似たようなことを議論しがちなので、全体セッションとしては、過去の議論のまとめの上に積み重ねられる工夫が必要。
- ・ファシリテーターから疑問が投げかけられても会場がシーンとしてしまうことがあったのでちょっともったいないと思った。(注:ファシリテーターのせいではなく、URAの概念や目指す方向性がボヤっとして、まだ関係者間でしっかり共有できていない点が原因かと思います。)
- ・具体的提案が盛り込まれた三木氏の基調講演は非常に勉強になった。
- ・少し議論の方向性がわからなかったです。
- ・URA同士のネットワークの必要性について理解した。
- ・これからURA制度を立ち上げ、学内に定着させる機関にとっては少し先の話かなと思いました。
- ・少なくとも 司会、ファシリテーターは 落としどころを設計しておくべき 何のための セッションだったのか さっぱりわからなかったフラストレーションが 残ったひとがおおかったのではこういう セッションでは ある程度の予定調和があってもよい。

●RA-S02: 日本の大学のファンを増やせ！～国際連携プラットフォームづくり～

- ・皆さん、一生懸命取り組まれていて、業務内容や活動実績だけでなく意識も含めて大変参考になりました。
- ・大規模大学であっても、組織的な取組はあまり進んでいないことが分かった。おそらく、機関としては進んでいなくとも、研究プログラム単位であれば先進的な取組があるものと考えられる。そういった取組を機関としての組織的な取組とするために必要なリソースについて、検討する機会を持ちたいと感じた。
- ・他業務で参加できなかったのですが、参加した同僚たちからそんなに大した内容でなかったと聞きました。国際連携はなにをゴールとするかも曖昧で、やりにくいと言えばやりにくい分野なので、今後も具体的な話し合いの場があればいいと思います。
- ・確かJASSOのデータで、日本への学部留学生のほとんどは人文系だと聞きました。日本文学など日本自体に関心があってくる学生が多いようです。講演者の話もふまえ、海外の研究者をひきつけるために、先端科学はもちろんのこと、やはり日本文化のファンを増やすことを本格的に始めた方が良く感じます。クールジャパンの失敗を踏まえ。多様な議論が行われており、興味深かった。
- ・今回の発表をきっかけに、今後は各大学の取り組みが国内外大学間連携につながるとよいと思いました。
- ・海外から日本に研究者を呼ぶための方法として、「日本は安全な国であることをアピールして、また、日本で奥さんを見つけてもらう」のような案が、セッション全体の結論のようになっていたように見えました。URAが集まってあんなに大掛かりなシンポジウムをして、結論がこれでは寂しすぎる(というか問題がある)気がします。URA同士のネットワーキングを促進することがシンポジウム最大の目的であることは分かります、だからといってせっかくの議論の機会を活用しないのは勿体ないと思います。
- ・日本の大学・研究軌間の良いところをもっと発信していく必要があると感じた。ただ、論文の国際共著の考え方が、EU内の国際共著と日本の国際共著とはその重みが違うと思う。それらをひと括りに議論するのは良く無いと感じている。
- ・英語でセッションを開いてもよい。論点が我々が考え目指すところからずれているような印象を受けた。
- ・(参加していない)
- ・4名の講演はそれぞれ興味深かった。ただ、それを本学で実行できるかは疑問。
- ・国際連携、と一言で言ってもご発表にあった通り、教育、研究、社会連携と幅が広く、今後は個別に絞って議論が深められることを期待します。
- ・外国人受け入れ体制が整っている大学は少ないと思う。ただ、研究者に限らず事務担当者にとっても外国(人)とふれあうチャンスを作るのは重要だと思う。また、日本にとどまる外国人を増やすためには、に対するプレゼンターからのコメントは、思わず確かにと思った。
- ・課題の共有をするという点ではよかったかと思います。次回からは具体的なアクションについて、実践例やリソースの共有化などといった取り組みに向けた部会を立ち上げられるくらいの方向性をもったセッションになるとよいかと思いました。
- ・認知度がまちまち。欧米型を目指すのか？日本の独自性を打ち出すのか？
- ・UAWについては全く知らなかったので、紹介していただきとても勉強になった。
- ・UWAの話は大変興味深かった。事務側も国際化するべきだと思っていました。
- ・大変参考になりました。次回も企画してください。
- ・国際連携に関し、海外から来られた方(Peter Karagiannis様)の意見が貴重でした。
- ・京大報告にもあったように、国際交流支援機構の体制整備についてが大変興味深かった。是非参考にしたい。
- ・これはタイトル(特にサブタイトル)に内容がマッチしていなかったと思います。もう少しテーマを絞ったり、体系づけた展開をさせたりした方が良かったのではないのでしょうか。

●RA-S03: URAネットワークについて考える②～組織の有り方とそのマネジメント～

- ・各大学での機能強化(パフォーマンスは不要) 学内ハブ機能の確立 各大学での意思決定への関与 その後ネットワーク
- ・三木先生の話が分かり易かった。ただ、URA職個々人の業務の話からいきなり国家の政策に飛躍した感じがあり、URA業務の幅が広がった分、何の話をしているのか判りにくくなったように思います。
- ・URAになったばかりなので、背景がわからず十分に理解できない点がありました。
- ・最も印象に残ったのが、三木理事長の「事務職向けに研究に関する研修をすべき」という発言。URAが仕事をこなすには、産学連携CDだけでなく、事務職とうまく渡り合う必要があるが、事務職はそもそも研究のことを知らない。URAの心が折れないようにするためには、上席のURAなり、事務職管理職が、URAが関わる事務職と時には代わりに戦ってやるぐらいの配慮が必要。
- ・プレゼンテーションの幅が広すぎて、テーマとしてはまとまっていなかったと思う。
- ・(参加していない)
- ・大変良かった
- ・ネットワークの有用性について、理解することができました。また、GRIPSの大学ベンチマーキングセミナーについて、是非参加したいと思いました。
- ・三木理事長のURAの立ち位置は明確で非常に参考になりました。三木理事長は会場で説明pptのhand-outを配られて非常に有用でした。他の殆どのセッションで資料は配られず、本セッションのご配慮が際立ちました。
- ・具体的なURAネットワークの活動がイメージできるような議論がもう少し必要であったと思います。
- ・URAネットワーク構築によるベストプラクティスの共有には賛成。URAの業務の定義は各大学で異なるため、共通スキルの設定には慎重な意見を持った。
- ・各講演内容は興味深いものがありましたが、それぞれの講演に共通する軸がよく見えず、もったいない気がします。また、議論の時間が少なかつたのが残念でした。
- ・阪さんの話が参考になった。
- ・URAネットワークは最低限必要と考えます。確かにオールジャパンでは研究力の総体として向上を狙う必要があり、URAネットワークへの期待も理解できます。ただ、目下のところ、URAの定着、言い換えると大学の研究支援機能を定着させるために、各大学とも試行錯誤している状況にあって、過度のネットワーク構築に時間を割かれる余裕はありません。しっかりと、自学の研究力強化に努力するのが先決。ネットワークはWin-Winの関係が成立することを念頭に、まずは緩やかな人的ネットワーク構築が望ましいのではないかと思います。
- ・話がまだ一般的すぎるので、どのような展開になるのか見えない。次回は、もう少し煮詰まった話題提供をしていただきたい。
- ・マネジメントについての話に注力した感じではなかったと思うが、時間が押したためにディスカッションの時間が短かったように思う。話題提供者が共通の話題を話している用ではなかったのも、個別に聞くと面白いが、それらをまとめてディスカッションする必要がいまいち理解できなかった。(個々の話題は非常に面白かったです。)
- ・三木先生のお考え、方向性に賛同いたします。やり方は、よくよく考えねばならないと思われませんが、新たな、先に構築、設立されるネットワーク組織については、自前で、つまり国から支配されてしまう程度までの支援は得ず、運営していくのがよいと考えます。この際、会員による会費のみならず、様々な収入源があり、これらも用い、運営されていけるようにすれば、さらに、良い方向へ進めていけるのではないかと考えております。
- ・各機関がURA体制構築・強化に苦心していることがよく理解できた。一方で、各機関が置かれた状況の違いが浮き彫りとなり、議論がまとまりきらなかつた印象を受けた。

- ・URAに対して、関連する外部の方から見た率直な意見を聞くことができ有意義でした。普通のことをやっているだけでは現状を変えられない中、URAへの期待は大きいことが理解できました。多様な方との対話について、かしまらなくても定期的にできると有意義なことが明確となったわけですが、その機会をだれがどのようにセッティングしていけるか、機動性の面でアイデアが必要ですね。
- ・ネットワークの役割が目指す方向性が少しでも分かった気がいたします。
- ・登壇者がしっかりとした方が揃っていたため、RA-S01よりは良かったが、もう少し内容に充実を持たせるための仕込みや進め方に工夫ができるのではないかと感じられる。
- ・政府機関からも期待されているようなので、今後も大学からURAを発信し、タイアップして日本の研究力を向上していきたいと思った。斉藤さん、阪さんの話はコンパクトにまとまっていてわかりやすかった。
- ・まず、登壇者が多く議論にさく時間が短すぎたように思います。各々の先生からもう少し詳しく内容をお聞きしたかったです。議論、話題提供どちらも導入部分で終わってしまったような印象があります。
- ・S01とパネリストを共有してプログラムを構成すべきだったでは。
- ・名古屋大学のシンポジウムの際も感じましたが、制度設計側の方と実際にURAとして業務に従事している者との意識の違い、ギャップの大きさを感じました。前者は高次のレベルを求められているようですが、URA実務者は横の繋がりや情報交換、研磨の場を求めているように思います。
- ・URA同士の情報交換について、コンプライアンスの問題もありますが、今回のシンポジウムを通して重要さを実感しました。競争相手ともなりうる他大学のURAとの関係も微妙かもしれませんが、情報交換する事による互いの成長は測り知れず、成長がなければ、結局URAは不十分な仕組みとして退化するだけではないかと思えます。ですので、これからもネットワークを強化し社会に役立つ存在として発展させていくことが、全ての参加者の進むべき方向と思いました。
- ・多くの方のいろいろな見識を伺えたことは大変参考になった。パネルディスカッションの時間が短かったことが残念。
- ・参加したプログラムの中で、2番目に吸収しやすい内容だった。
- ・URAのネットワーク、仕事を考える、立ち位置、世界各国のURAコミュニティなど、幅広く知識を得ることができよかったです。
- ・三木先生の集約に尽きると考える。文部省に要求する点は、事務職なのか教員職なのか、第3の職なのか、大学任せにせず、圏としての方針を打ち出すこと

●RA-S04: 中小企業大学におけるURAの役割と課題

- ・大変に参考になりました。
- ・中小であろうと大規模であろうと、URAの仕事内容に関しては差はないはずですので、組織の中でどのような位置づけで活動をするのか、資金力の差で変わってくるようだが、これは当たり前のことであり、目新しさはなかった。
- ・中小大学に限定している意味が曖昧で、もう少し切り口を明確にすべきであった。
- ・発表大学の状況はとても参考になった。大規模大学も同様な課題があると意見があったが、今後議論を重ねていくうちに、課題の別も明らかになるのかと思った。
- ・※タイトルが間違ってます。各大学の事例紹介の域をでないセッションで、結局「中小規模大学特有のURAのあり方」を提示できていなかったよかったです。
- ・各機関とも、少人数のURA体制の中で、工夫をされつつ成果を上げていることと、機関内の他組織とのコミュニケーションを密に取ることが非常によく分かりました。
- ・文科省事業での福井大学、自主財源で整備に取り組んでいる岐阜大学・熊本大学や順天堂大学、と実際の事例がとても参考になりました。URA整備については、今更ながら、大学としてのビジョン(どうしたいのか)やそのための方向性、それを実現するための具体策といったことが、URA整備以前に強くまとまる必要が、中規模地方国立大学には必要だと痛感しました。10年後、20年後の大学の姿をイメージする力が弱いのが実情です。追伸:RA-S04のタイトルですが、「中小企業」は「中小規模」だと。。。
- ・中小規模大学におけるURAの必要性、役割の違いについて把握することができた。
- ・中小規模大学に特有のURAの役割や課題はあまりないというような方向に議論が進んだように思いますが、実際には、本部・部局での組織づくりや、URA類似業務組織との統合・すみ分けなどについては、規模も関わってくると思います。
- ・中規模大学では、URA体制整備が遅々としているが、URAに対して研究支援の専門職者として何かを期待しているが、有効活用がなされていない。
- ・中小企業大学⇒中小規模大学ですね。中小規模の大学と大規模大学でもURAの役割、課題はそれほど差がないことを認識した。規模が問題ではなく、大学の個性によって役割と課題が異なるのかもしれないと感じた。
- ・大規模大学、や文科省の「研究大学強化促進事業」に採択されたような大学におけるURA活動と、中小規模大学におけるURA活動について、活動の方向性が異なる部分があるのか興味深いテーマであった。今回のセッションでは、異なる部分よりも、根幹的にURA活動として共通する部分の討議が多かったが、今後とも、本テーマに関するセッションや討議を続けて欲しいと考えます。
- ・所属大学と同じ悩みを持っていて共感できた。
- ・中小規模大学ながらも、少人数の優秀な人で支えている感があった。
- ・中小企業大学でどんな大学でしょうね 比較的よくマネージされていましたが 中小規模大学の類型を 事前に分けておくことが必要です 各大学にアンケートをして、類型を整理しておくべきでした
- ・中小企業(×)＝中小規模(○) 各大学の独自性＝個性が必要となる
- ・規模の小さな大学の問題に焦点を当てた議論をして欲しかった。
- ・私の所属する機関も中小規模に分類されるので、実際に同様の状況で活動されている方々のお話が聞いて良かったです。特に、Pre-awardに重点を置いている大学やPreとPost-awardを1人のURAが担当している大学など、業務形態も多様で勉強になりました。
- ・課題が共有できてよかった。
- ・制度設計が発展途上であることがわかった。
- ・司会者が質問を引き出す前に、さえぎる傾向にあった

●RA-S05: 目指せ、科研費強化!

～科研費の獲得増に向けた機関の研究支援マネジメント～

- ・私立大学からの報告であったが、できれば採択件数の多い国立大学、中程度の国立大学からの事例紹介を期待したい。
- ・科研費獲得に向けた各大学の取組を今後本学でも参考としたい。
- ・立命館大学、中央大学などの発表については、内容が濃く、とても有意義であった。
- ・大学によって、先生に対するサポートをどこまで出来ているか知れて良かったです。
- ・各大学の事例が具体的で大変参考になったほか、科研費という研究資金制度に対する新しい見方を得ることもできた。テーマの立て方が新しいセッションだったと思う。
- ・ナレッジの共有化を一つの目的とされていたようですが、競争的資金であるので、難しいと思います。
- ・中央大学の取組姿勢は非常に学ぶ点がありました。事務の方のマインドセットを中央大学のように変えるのは非常に大変だと思いますが、第一歩は今回のようなシンポジウムに事務の方にも参加頂くことだと思い、今後共に参加することを呼びかけます。
- ・若手研究者の研究費獲得支援は重要だと思います。任期つきの若手が多い中、研究費を持って次の大学へ異動する必要もあるでしょう。各大学、工夫されているのがよくわかりました。大学間・分野横断的なプロジェクト構築に成功されている大学の取り組みを知る機会もあればと思いました。
- ・中央大学は組織的な動きはこれからといった感じがした。なぜ当該大学を選んだのか疑問が残った?
- ・時間が非常に短かった
- ・立教や中央大の実情が聞けて参考になる部分があった
- ・事例等を聴くのは、実際に担当している者からすると参考になる点や興味を持てる点が多い。次回以降も、同企画の続編を期待したい。
- ・URAのいない大学での事例は、同じくURAのいない当大学(URA類似職はあるがすべて事務員)としてとても参考になりました。
- ・非常に有意義な会でした。発表された2大学の取り組みは大変参考になりました。
- ・各講演内容は興味深く、話題の共通点も見えたので良かったのですが、各人の持ち時間が長い印象がありました。もう少しコンパクトにまとめていただいても良かったのではないかと思います。また、先進事例として私大2校の話題提供でしたが、比較論という意味では、国立大学や公立大学からの事例もあって良かったのではないかと思います。このセッションは関心が高かったと思うので、もっと時間を取っても良いのではないのでしょうか。
- ・URAネットワークの可能性を垣間見たとても良いセッションだと思いました。URAが参加したいというモチベーションが働く内容になっていたと思います。今後も継続していくことを希望します。
- ・個人的には特に役立ちそうな収穫はなかったのですが、参加したセッションの中では一番よくまとまっていると思いました。ただ、質疑応答なりディスカッションの時間をもっと取った方が良いです。
- ・科研費が及ぼす影響というのを各々違うの立場の人から聞けて、興味深いセッションだったと思う。科研費の獲得を支援するURAのバックグラウンドが思ったより専門知識を必要としない人材が多い(その大学では)という事を初めて知った。
- ・緊張していらしたと思いますが、ファシリテーターはある程度経験ある方がした方が場が盛り上がりやすい。パネリストの報告は、勉強になりました。
- ・URAがいない既存の事務組織でも充分に対応していけることをお示しいただけたように思います。URAの独自性とは何かを考えるとともに、他大学、特に独自の取り組みを推進している私立大学の例に謙虚に学ぶ姿勢がURAIに求められるように思いました。
- ・時間が足りない。質問できずに残念。話が何となく拡散してしまったように感じた。

- ・大変役に立った。限られたリソースで、しかも私立大学という逆境をはねのけて真摯な姿勢で実績を上げている担当者に敬意を払いたい。URAは国立大学という文科省の傘の下の緩いシステムよりもきちんと経営を行っている私大経営にとってこそ必要でいかされるのではという印象を受けた。
- ・具体的な話を聞くことができ、大変参考になった。自機関の取り組みが遅れているように考えていたが、必ずしもそうではなく、遅れている面、同様にできている面、進んでいる面があることが認識できたことは大変大きな収穫だった。
- ・科研費が取れても取れなくても研究は続いているものであり、科研費は学内の研究を知る一つのツールという意見に同感した。科研費応募、というツールを以外でも学内の研究の進捗を知ることができる仕組みを作っていきたい。
- ・実践的でよかったです。もっと科研費申請について語れる御仁がURAネットワークには眠っているでしょうから、いろんな人のご高説をききたいです。
- ・科研費獲得支援の方法として、審査員経験者あるいはその他のスタッフそれぞれの支援方法と、支援者のスキルアップ方法のイメージが大分作れました。どうも有り難うございました。
- ・ファシリテータ聞きたいことばかりを聞かされた感じがする。フロアからの質問をもっと取り上げるとよい。
- ・私立大学の取り組みを聞くことができ、非常に参考になりました。特に中央大学さんの取り組みを聞いて、僕達でも出来るんだと励みになりました。

●RA-S06: 人文社会学系への支援のあり方

- ・種々の異なる組織における、実務の紹介であり、非常に参考になった。本学における、文系支援を考えており、経験を有する大学との連携を含めて、文系支援の方法を考えていきたい。
- ・今回の発表をきっかけに、今後は各大学の取り組みが国内外大学間連携につながるとよいと思いました。
- ・他大学の事例が参考になりました。
- ・時間の都合で質問できませんでしたが、他大学の人社系支援の状況がよくわかりました。今後もこのコーナーを続けていただきたいです。
- ・文系研究者の評価は理系と異ならせる必要性について再確認した。それ以外については理系とあまり差異はない印象。URAによる過剰なサービスとならないか、という支援もあった。
- ・発表が具体的に寄りすぎている、自分たちにどのように活かしてよいのかシミュレーションしにくかった。
- ・(参加していない)
- ・参加したプログラムの中で、1番吸収しやすい内容だった。 質疑応答の時間がもっと長くあると良かった。終了後に講師と名刺交換をし、いくつかお話をしたかったが、会場設営の関係もありかなわなかったのが残念だった。
- ・人文系の支援は茫洋としてしまうかんじがあるので、それをセッションできちんと取り上げることに意義があったと思います。人文系は正直、事務業務を手伝ったほうが所属機関全体のためにはなると思います。
- ・内容は参考になったが、人文社会学系特有のものがあるという感じはしなかった
- ・抽象的な文言のみの説明はならず、単純にこんな点で苦労している、こういう点では教員からの評価が良かったなどの、現場の単純なところからの発表が聞きたかったです。要するに、支援業務の詳細な事例紹介がほしいです。自己紹介の時間が長いので、支援事例の詳細な説明に時間を回してほしいです。
- ・人文社会科学部局のスタッフの話でありURAの話ではない。
- ・人文系の研究支援において経験豊富な方の意見が聞けて良かった。ただ、人文系特有の支援メニューなどの話を聞けるとして参加したのですが、プレアワード・ポストアワード、科研費などほとんどが理系URAと共通する話でした。文系・理系の両方の研究支援を経験した人に違いを聞いてみたいです。
- ・人文社会学系に絞った企画は珍しいので、議論のスタートとして意義があったかと思います。共通の課題を持つ者の出会いの場、情報交換の場として機能したのではないのでしょうか。アンケート結果から課題の輪郭がもう少しはっきりして来ると思いますので、集計結果に期待します。
- ・各パネラーのこれまでのキャリアについての話が長すぎた。
- ・人文社会学系の研究支援は必要であるといった一定の答えが前回、福井大学の研究会でも導き出せたはずであるが、それとのつながりが見えなかった。
- ・人文社会学系特有の問題、何が理系の支援とちがうのか、どんなことに注意しなければならないのかといったことを知りたかった。
- ・人文社会学系の支援者だけでなく理系の支援をしている人とのディスカッション等をいれなければ そのあたりは導き出せないのではないかとおもった。
- ・理工系の支援のあり方もSessionとしては必要なのでは。
- ・パネラー個々人のプレゼンが長すぎて、その後のディスカッションの時間が少なすぎたと思います。
- ・人社系といえど、支援内容ほとんど理系と変わらないと感じました。ただ講演されていたような、適任でベテランの方を雇用できている大学まれで、ますます差がつかないと思いました。理研の高橋さんが最後に発言されていましたが、一部、後で発表者側に伝えれば良いようなことも含まれていると感じました。

- ・様々な背景(プロフィール)を持つ方々がURAとして活動し、またその活動内容も共通しているもの、異なっているものがあり、URAの職務内容のバラエティが多々あることを実際の例で知ることができ、有用でした。会場からもありましたが、人文社会学系や理工系といった系で分けたり、逆に分けずに考えることが良い検討結果を生むと思います。
- ・司会者として登壇いたしました。予想を遥かに上回り、大勢の方に参加して頂くことができ、我々が考えている以上に、本テーマに関心をお持ちの方が多くいらっしゃるということが分かりました。また、ファシリテータとして、パネル・セッションの準備の重要性や司会進行の難しさも学ぶことができました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。
- ・個々のプレゼンは大変参考になったが、ディスカッションの時間が不足していた。全体をお聞きした範囲では、支援の在り方というよりも、既に実践されていてそれぞれスキルアップすればよいのではないかと感じた。
- ・登壇者それぞれの背景や行っている業務内容が明確でわかりやすかった。・高橋さんが指摘されていたが、自然科学系研究と人文社会系研究の支援で重複している点や特有の課題を明確にするとより議論がしやすくなると感じた。・参加者との意見交換については今後の課題と感じた。
- ・どのような形で進められているのかを知る良い機会であった。
- ・人文社会科学特有の支援と云うのは実は無く、支援の基礎は理系でも文系でも同じであると思った。
- ・人文の支援体制が分かった。もうちょっと具体事例があったらよかったかも。
- ・パネラーの自慢話で時間取りすぎ。何が、アットホームになんたらだよ。京都大学の奴も、ちゃんとファシリテートしろ！！っていうか、打ち合わせしておいてよ！
- ・人文社会科学系への支援については、適切な分析による業績把握により、強み弱みを把握し、学内経費による研究費支援や異分野融合や研究者のマッチングを行う事による活性化をはかる。と繋がっていくとおもうが、適切な分析が難しい状況にあると思われる。
- ・様々な先例を紹介されており、非常に参考になった。

●RA-S07: 行列のできるURAお悩み相談所

- ・URA、研究支援業務にはじめてついた人の相談に偏っていた気がする。もっとURA特有の問題を投稿がなくても想定でつくってでも議論してもよかったのではないかとおもった。パネラーの先生方の回答はどれも最もで、回答いただくのが申し訳ないような題材を取り上げる必要があるのか疑問であった。
- ・業務の都合によりわずかの時間しか参加できませんでしたが、工夫された運営で個々の参加された方にとって、非常に有意義だったと思います。
- ・非常に面白い企画であったと思います。コメントーターに多様性があると、さらに良いのではないかと思います(たとえばキャリアコンサルタントとか、産学官連携コーディネータとか、類似する異分野の方々)。難波さんの、編集者時代と今のURAとを対比しながらのお話は、とても参考になりました。鳥谷さんも、長いURA経験に基づく発言も参考になりました。
- ・進行がうまく、スムーズだった。
- ・企画内容としては面白く、興味深い討論を聴くことができた。とても残念なのは、ポスターや演出は、まるで学園祭の類で、ある種の学生が行うようなものであり、せっかくのレベルをわざわざ下げたようであり、共感できない。
- ・まだURAを設置していないが、設置した場合のURAの悩みがダイレクトに聞けたのがよかった。
- ・研究戦略の立案についての課題を聞いたかったのだが、聞けなかったので残念。
- ・面白かった。もう少しテンポよく進行できるともっと良かったかもしれない。
- ・事前サービス、企画、プレゼン、司会進行とどれも完成度の高いセッション。課題の再確認と他のURAがどう考えているかが分かり、今後の業務の参考となった。
- ・興味深いセッションでした。
- ・ショウとしては面白かった。
- ・真面目で硬い企画も多い中、こういったバラエティ的な企画もあると硬軟取り混ぜた感があり面白いですね。ただ質問がちょっと受け狙いに走りすぎている??もっと切実なお悩みもある気がします、オープンな場ではなかなか出しにくい気がしました。
- ・若手のURAはいろいろと悩んでいることが分かりました。
- ・趣旨は大変よかった。また司会進行も上手だったと思います。
- ・もう少し相談がたくさん集まっているとよかったと思う。
- ・URAとしての悩みから個人的な悩みまで、具体的に知ることができた。
- ・コーディネータ事業とは異なり、若い人が多数参加している事がわかった。したがって、なかなか現場レベルでの解決は、難しいようですね。
- ・URAの悩みも飲み会の愚痴みただし、ファシリテーターも、だんだん、盛り下がるし、回答も一般的だった。
- ・進行のテンポが少々遅めに感じました。様々な事情があったのかもしれませんが、取り上げていた悩みの種類が「そんなこと??」と感ずるものもありました。「そんなことで悩まず、仕事しろー」的なキャラの相談員さんがいても良いではと思いました。みなさん優しくかったので。
- ・URAの内なる声を真正面から取り上げたすばらしいセッションだと思いました。外の方から「将来に不安を覚える方が多いことを実感した」などの印象を聞きましたが、結局「URAしか解決できない」のも事実だと思います。このセッションは転じて、きっとプラスの方へ向かうURAのパワーとなるように思っています。
- ・大変良かった
- ・わざわざ取り上げるまでもない、悩みが多かった。
- ・面白い企画だったと思います。こう言った、現場の、あるいは、個人の悩みや課題を共有できるのが、ネットワークのいいところだと思います。

- ・喜多山さんの司会が面白く、また、お悩みに対するコメントや相談員への話のもっていきかたなど聞きやすかったです。また、相談員の方々が、様々なバックグラウンドを持ってらっしゃったので、それぞれの方のコメントに特徴があり、気づかされる所がありました。難波先生は、出版業界の経歴をもとにお話されており、新しい視点を頂きました。田中先生のコメントは、わかりやすく考えさせられました。また、珍しく面白い演出でした。それぞれ関係者の方々が作り上げられていっているシンポジウムだと感じました。
- ・こちらも、類似職のかたがた(大学によってコーディネーター名称でも同じような仕事をしてきた)に失礼な内容に思いました。
- ・URA独自の悩みと一般的な若者の雇用問題を分けるべき。もう少し、自分を研究者・同僚のURA、企業の方々に認知してもらうために汗をしっかりと流してから悩むべきことも見られた。
- ・全国のURAの方々がどんなことに頭を痛めているのかが分かり、自分(URA類似職)との共通点や違う点などが知れてよかったです。
- ・どんだけ、URAって、えらいの？それなりの学問を積み重ねたけど、研究者にも教員にもなれず、民間には相手にもされない、負け犬集団のくせに！
- ・今後も続けてほしいです。
- ・大学URAの状況がよくわかる面白いセッションでした。ただ、自機関が独法のため、状況が全く異なっていることもよくわかり、今後ネットワーク等に参加するにあたり、連携できる局面とできない局面、相互理解が難しい面なども出てくることが予想された。
- ・企画自体は良かった。ただし、取り上げた質問がやや物足りなかった(答えが予測できる)し、もっと深掘りして欲しかった。回答者のバランスがよかった。もう少し悩みの意味あるいは意図を会場で考え、深める時間があればよかったかと思う。時間がなかったと思います。
- ・本学はURA組織がまだ無いため、現状においてURAの皆さんがご苦労されている点を知るために参加しました。一部の若手研究者からは、CDやURAなどの職種を増やすばかりで意味があるのか？研究の底上げを考えるなら、若手の身分安定を優先に考えて欲しい、といった意見も聞きます。今後、URA職が大学でどのような業績をあげていくか、成果が求められると思います。
- ・アンケートで相談内容を募集したにもかかわらず、講演者達が相談内容を嘲笑するような態度が頻繁に目につき、募集者に対する敬意に欠け、非常に不快感をもった。時間が無く取り上げない相談内容も、取り上げないならば、見せる必要がなく、募集者へ失礼である。
- ・本学のURAが同じ悩みを抱えていると共感できる場所は少なかったが、今後、他大学のURAと連絡をとることが多くなると思われるので、その際の参考にはなった。URAが事務職員と協調して業務を進めることの苦勞を感じていることは、法人部門との調整をしながら研究支援をすることに近いものを感じた。
- ・実際の問題なのかもしれませんが、当該企画を含めシンポジウムが税金で運営されている自覚を持つべきだと思います。
- ・なかなか面白い企画でした。今、議論されている相談がURAにどれほど注目されているかがわかる投票のようなシステムがあればよかったと思います。
- ・URAが直面している共通の問題や、各組織ごとの課題がよくわかり、大変勉強になりました。
- ・みんな悩んでいることは同じだと思った。腹をくくってやっていくしかないんだろう。
- ・とてもよかったです。
- ・企画意図はいいが、多少長くだらける傾向にあった。相談員の回答がほぼわかりきっていることの繰り返しになってしまったのが痛い。
- ・回答者に全ての質問を等しく答えさせる必要はない。もっと、数をこなすか、会場に語りかけて欲しかった。
- ・正直言って、参考になる事例はなかった。試みとしては、面白い着眼点であるが、悩み・回答ともに、URA業務の展開にとり、実際的な話題ではなかった。
- ・あまりネガティブな方向にいすぎないような工夫が必要と感じました。また、客観的に見て不適切な意見をどう扱うか工夫が必要と感じました。
- ・私は事務職員のURAですが、URAからの悩みのなかに事務職員との関係についての悩みが多くあげられており、参考になりました。
- ・URAの周知について、鳥谷さんから「URAを周知するよりも教員からあの人がいると助かると思われれば良い」との発言、感動しました。
- ・68件の内、67件だけ印刷して、あと一件印刷されていない理由が気になりました。

- ・日々のお悩み共有には役立ちましたが、開催方法は改善の余地があると思います。例えば、集まったお悩みについて当日取り上げられたのは10件程度で、残りの相談については回答できていません。例えば、あらかじめソリューションも広く募集し、例示としてこれをセットで提示するなど、何らかの対応が必要であったと思います。
- ・URAのお悩み相談は非常に面白かった。一見するとくだらない話でも、実務者にとっては貴重な意見が多かったように思う。が、それらに対する明確な回答を用意することは難しいのではないかと感じた。悩みを共有するだけでなく、いずれは、こうしたら良くなったというBPを話す場になるとよいと感じた。
- ・非常に面白いプログラムだと思う。ただ、ひとつひとつのお悩みに、相談員全員からのコメントは必要ないのではないかと感じた。米国SRAの年次大会でも、同様のプログラムが複数あったが、本プログラムの運営の仕方は米国のものと違い、日本人が参加しやすい工夫がされ、また、単なる愚痴の言い合いで終わらせない仕掛けもあり、とても練られたよいプログラムだと感じた。
- ・ちょっとそれは、自分でなんとかしなさい！っていう質問が多かったです。取り上げられなかったけれども、ハンドアウトに載っていたものの方が解決してほしかったです。
- ・対話型で面白いと思った。匿名で本音も出ていたし、MEXTからの登壇者もいて政策決定者側の意見も聞けて有意義であった。
- ・鳴り物入りで一番人気のセッションだったようですが、蓋をあけてみるとはなばなしさには欠けた気がします。壇上の人たちもなかなか具体的な解決策や意見は言いにくいようだったので、お悩みとその対応策を書き込めるサイトを残しておけば有用なんではないかと思っています。
- ・一番リラックスして身近な問題に直面できるセッションでした。事前にお悩み相談のサイトを見ていたので、本セッションでパネリストの方々が直接回答や意見を述べられたのでわかりやすかったです。
- ・期待していたほどではなかった。
- ・URA同士の情報交換について、コンプライアンスの問題もありますが、今回のシンポジウムを通して重要さを実感しました。競争相手ともなりうる他大学のURAとの関係も微妙かもしれませんが、情報交換する事による互いの成長は測り知れず、成長がなければ、結局URAは不用品な仕組みとして退化するだけではないかと思っています。ですので、これからもネットワークを強化し社会に役立つ存在として発展させていくことが、全ての参加者の進むべき方向と思いました。
- ・それぞれ4名の違った立場の方の意見を聞くことができ、とても参考となった。ただ、女性URAが2名いらっしゃったのを、1名を若手の男性URAでも良かったかなと思いました。
- ・URA業務同様、悩んでいる内容も各大学でバラバラであることがわかった。
- ・URAの現場で抱えている具体的な課題が見えて、大変良かったと思う。
- ・もっと軽いノリになるのかと思いきや、意外とまじめで、他のセッションとの違いが微妙な気がしました。愚痴の発表会にしても仕方ないですし、現場レベルでのあれこれを、URAの現状の課題等の大きな話と結びつけるような展開でよいのかもしれませんが。
- ・立場、経験、状況に応じて、多様な悩みや考え方があるということを、改めて認識させられる内容でした。コメンテータの皆様の幅が広い事が、より内容を深めていたと思います。
- ・企画はよかったのだが、会場が広すぎたために、企画者が考えたような一体感が得られなかったように見えてもったいなかった。お悩みのひとつひとつはともリアルだったが、いずれも簡単に解決はされないように感じた。現場のURA同士で共有・ディスカッションする形式の方がよかったのかもしれない。
- ・私自身が、10年間の理系技官として教員の教育研究活動支援の後、事務職に異動し、ここ15年間は企画・評価・戦略といった職で、新組織や体制等の立ち上げに関わってきました。そのため、今般のURA体制の立ち上げやURAの職務内容やお悩みといったものについても、経験を通して日常をイメージし、共感することができました。やはり、雇用形態の確立は急務といえます。技官といえども、職務範囲が研究室で様々で、一つの研究室に『嫁入り』と揶揄されるような状況(室内の教員の公私にわたる便利屋的意味合い)も多々ありました。キャリアパスもなく給与も頭打ちでしたし、事務方との連携にも腐心していました。URAにとって処遇の不安定さは、システム全体の持続を図るうえでアキレス腱ではないでしょうか。
- ・ほとんど一般論に終始してしまった印象がある。もう少し具体的な相談、回答があるとよかった。

●RA-S08:ファンディングエージェンシーとURAの対話

- ・FA側でもサイエンスマネージャー、URA的なポストを設けるべきと思うようになった。
- ・プレアワード&ポストアワードを中心業務としてURAを配置している大学が多いように思えたが、ファンディングエージェンシーがコンプライアンス対応までURAに期待していることがわかった。
- ・セッションを選択した際に予想していた内容とやや違いがあり。もっとFAへの補助金プログラムの課題設定への働きかけのお話かと思いきや、補助金の公正使用、不正防止の課題に重点があったように思います。これはこれで重要な課題ですが、ご発表にもあった通り、この部分は事務職員が担っているケースが多いため、大学全体で取り組んでいく必要があるかと思えます。
- ・研究費不正等は、重要な内容であることは承知しています。ですが、ファンディングエージェンシーとURAの対話というタイトルで考えるとファンド獲得の視点での内容も入っていたら良かったのではないかと思った。
- ・問題提起は非常に素晴らしいが、一般URAに向かったの提起では効果が少ないと思われる。
- ・自機関では研究不正が起きていないこと、監査・コンプライアンス体制を整えており、予算執行も専門部署が管理しており、これらの点については率直に言ってあまり得るところがなかった。企業との関係については今後の課題なため、参考になった。ただ、いずれのプレゼンも細かな字で多くの事項を詰め込んだスライドを駆け足で説明するもので、要点がわかりにくく、いかにもお役所的な印象を受けた。FAもプレゼン能力を磨く必要があるのではないかと思う。
- ・個別事例を紹介していたが、具体的になにを議論しようとしていたのかわからなかった。
- ・米国のURAの成り立ちが、研究弁護士(コンプライアンス対応)だということを知らなかった。日本ではこの部分、注力されていないように感じるのだが、個人的にはURAの役割が期待される非常に大きな仕事だと思っている。“THE ROLE OF RESEARCH ADMINISTRATION”をさっそく読もうと思った。
- ・海外のFDPの取り組み、刺激になりました。
- ・URAが生まれたきっかけが米国におけるコンプライアンス問題に対応させること、というのが印象的でした。これまでのFAと機関のつながりの中で、URAが深く関与する必要があると理解した。
- ・3つのFAからそれぞれのテーマでコンプライアンスに関するお話が聴けたのはよかったが、その後のディスカッションではテーマから話が逸れてしまっていた。もっとFAの方々からの意見が聞きたかった。
- ・高橋上席フェローの、URAは待ちの姿勢ではダメという意見など、納得するところが多くあり、有意義だった。
- ・資金管理についての説明については、その重要性は理解しているところですが、正直なところ研究力向上やイノベーションの創出のためにどのようなプログラムを考えるべきかといった実務的な側面について対話させていただければと思いました。
- ・ファシリテーターの個人的な見解が場を盛り上げていたように感じました。パネリストの話の内容もバラバラで、何を意図したセッションだったのかわかりませんでした。
- ・内容のある討論・質疑応答が聞かれたことで充実感があつた。また、講師の方々も本音を話され、興味深かった。もう少し広い部屋でゆったりとした気持ちで参加できるとなお良い。
- ・コンプライアンス管理をURAの業務とするためには、それに応じた権限、仕組み作りが重要と感じた。ファンディング・エージェンシーから見た場合、どのようなURAが存在し、どのようなURAのネットワークの仕組みがあると円滑に業務が進められるのか、についてコメントが聞きたかった。
- ・コンプライアンス形成にかかる対話の機会作りの話は興味深かった。その対話の場づくりや環境づくりを踏まえて、ファンディングエージェンシーにおける助成・委託事業のデザインなどについてもそのような機会が形成されればよいと思う。
- ・NEDOの方の説明が有意義でした。ファシリテーターの高橋先生のURAは主体的にとのことご意見は肝に銘じます。

- ・JSTからURAへの出向もいいとは思いますが、URAからJSTへの出向もあるべきだと思います。
- ・予算の不正使用も大事な課題ですが、もう少し「FAとURAの対話」が意味するところの議論が聞ければよかったと思います。
- ・コンプライアンスのお話に終始されるとは期待外れでした。
- ・設定が難しい上に、時間が短すぎる。1つのファンディングに与える時間がもっと必要。じっくりやれば面白かったはず。
- ・高橋先生の厳しいお言葉に会場は静まりかえっておりました。他力本願を捨て、自分が切り開くという意味をURAは持たないといけないというお言
葉はその通りだと思いました。
- ・概念理念だけではなく、実践を積み上げていくことがこれから必要ですし、多様なバックグラウンドを持ったURAが高い理想を掲げながら着実な実
践例を積み上げる、茨の道を進むURAがひとりでも増えることを願います。
- ・期待以上だった。セッションのタイトルではあまり想定できなかったが、実は目玉のセッションではないかと思えた。適正執行、コンプライアンス
は研
究支援の根幹にあるべきで、研究者がそういった間違いに遭遇しないように研究支援できることがURAのスキルであると思った。URAはファン
ドの
獲得が仕事のひとつであるが、機関がコンプライアンスの整備やうけざらの体制を構築できていなければなりたない。その重要性を機関に
も
フィードバックした。
- ・とてもよかったです。資料をいただきたいです。
- ・FAと大学との認識のずれが明らかになった。また、FAの率直な意見を聞く事が出来て、それを研究者支援に活かす事が出来ると感じた。

● RA-S09: URAとしての専門性を自力で築くヒント

- ・個人的に一番良かったセッション。URA内部ではなく、近縁の先行分野で実践を重ねておられる講師の話は自らの課題に適用を考える際、非常に参考になった。講師がよかった。
- ・もっと、なにかしらの業務に焦点をあて、それに対して自分なりの専門性を見出していくことを促す内容かと思っていたので、当初期待していた内容とは違うものだった。が、他の人にとっては有意義だったのだろうと思う。
- ・科学技術コミュニケーター養成に関する話題でしたが、興味深く聞くことができました。願わくば、講演は半分ぐらいにして、話題の内容をURAに置き換えたらどうなるか、という議論を進めるべきではなかったかと思います。聴講者はURAなりたての方が多くと推測しますので、消化不良の感があります。
- ・普段何となく思っただけでも、明確に言葉で表現しづらい点についてお話を伺う事ができ、非常に有意義な内容で、「腑に落ちる」感覚がありました。ただ、理系URAの方々の中では好き嫌いが分かれるかもしれないようにも感じました。
- ・(参加していない)
- ・よい話だとは思ったが、URAとしてどのようにヒントを得ればよいのか思い浮かばなかった。
- ・科学技術コミュニケーター育成の経験をベースに、講師の方からお話がありましたが、URAでも近似の問題を抱えており、いくつかの示唆を得ることができました。とくに組織としてのURA(URA室)の評価をどのように測っていくのかは、短絡的な実績ベースでは難しいのではないかと感じており、その意味で、評価を下す人(意思決定者)とのコミュニケーション(評価者に対する手紙)というご指摘は、腑に落ちる部分でした。
- ・確立されていないポジションだからこそ、志を高く持って邁進していかなければと鼓舞されました。
- ・ピントがずれている気がしました。
- ・参加したかった！
- ・研究支援と研究者支援とは分けて考えるべき
- ・期待した内容と違った。むしろどういう資格が必要か、経歴はどうかなど、個々のURAの経歴を事例として紹介してくれたら良かったかも
- ・キャリアについての考えが勉強になった。
- ・URAに限らずあらゆる仕事において役に立つお話を聞くことができました。
- ・より機能的なワークショップを通して、“ネットワーク知”を高めて行く方法論に魅力を感じました。自分自身、手探りで進めなければならない業務が多い中、大変参考になりました。
- ・講演者は依頼されて講演しているので責任はないが、招聘した阪大URAが、URAとの関連を全く検討・説明せず、聴講者に丸投げしており、無責任である。講演内容もURAと関係しない詳細が多く、聴講の時間が無駄であった。阪大URAが講演内容に事前に目を通し、カットをお願いするなどするべきであった。
- ・人材育成プログラムが紹介されており、そのプログラム自体は良いものでも「自力で」とは異なる印象でした。
- ・科学技術コミュニケーターの教育・研究・実践ということで、お話の中から応用できそうなことはたくさんありました。コミュニケーションの進め方やコンプライアンスなど、すぐに活用できることを学習できたと思います。
- ・確かにヒントはありましたが、すべて科学技術コミュニケーターお一人の話で終始してしまったのはもったいない気がしました。研究会というより単なる講演会でした。もっとURAの専門性について議論が進むように、複数の方にお話しいただくか、URAの仕事と比較してみるなど工夫が欲しかったです。

●RA-PS01: RA研究会全体セッション

- ・大変良かったと思います。いつもながら、理化学研究所の高橋様の歯切れの良い司会に感服いたします。
- ・議論にはならなかったが、人数と、会場の設営の関係で、それはもともと設計に入っていなかったのだろうと思う。
- ・ネットワーク発起人に登録しました。UNITT組織との統合、連合？、私立大学の参画の推進も検討を。
- ・柘植先生及び田中先生のご発表は、これからURA整備を行おうとしている本学にとっては、大局からの概念整理、経緯整理、今後の方向性について、学内議論を進める上で非常に参考となるものでした。
- ・URAに求められるものと、その為にネットワーク化と研修等によるスキルの高度化をさせていこうと考えられていることはわかった。
- ・理想と現実のギャップを痛感した。
- ・参加人数が少ないことに驚きました。他のセッションでは事務組織の方や協力会社の方など、"URA"とは名乗らないものの着実な研究支援をこれまで続けてこられた方の姿をたくさんお見かけしました。"URA"という職種の定着のためには、こういった事務組織の方や協力会社の方などの連携が不可欠ですし、ネットワーク構築に向けてはその視点を忘れずに進めていただきたいと願います。
- ・全体像が判りやすくなりました。このセッションこそ事前にhand-outが用意されていれば、事後に役立つと思います。
- ・URAのネットワーク、これは大事だが、何を指してネットワークを作るのか、もっと目的をはっきりさせる必要がある。各大学で、求められるURA像が違うのであるから、目的を明確化した上でネットワークを作らないと、上手く機能しないのではないかと危惧している。
- ・柘植会長の話は話す相手が違う気がした。夢を持たせるのも良いが現実業務とギャップがあり、URA個々人に言っても仕方のない話と思った。
- ・大変良かった
- ・これから立ち上げるものなので、仕方のない面はあるかと思うが、ネットワークで何をしようとしているのかが、もう一つわかりにくかった。すでに研究会、シンポジウムが立ち上がっており、情報交換は一定レベルで実現しているように思った。話を聞く限りではどちらかというと、ネットワークというよりは学会に相当するような全国組織を立ち上げようとしているのかな、という印象だった。ネットワークということならば、県ないし地域ごとの小さな団体を多数立ち上げ、しかる後にそれらをつなぐ仕組みを作ったほうが、コアを最初に作るよりは良いのではないか。
- ・最後に相応しい参加者全員に役立つ内容も盛り込んで欲しい。最初のお二人の話は多くの方に興味があったのか疑問です。
- ・前出ですが、この回でも制度設計側の方と実際にURAとして業務に従事している者との意識の違い、ギャップの大きさを感じました。URAネットワークは必要ですし賛成ですが、誰が主体で何のためにネットワーク化するのか、もう少し明確になるとよいかと思いました。
- ・柘植先生のご報告は、いつ聞いても多くの示唆があり、大変興味深く感じます。柘植先生がお話されたURAに期待するイメージ(シグマ型人才)も、実際に業務に携わるURAからすると少し期待が大きすぎると感じる部分もあるかと思いますが、そこを目指すという意味では大変に刺激を受けるかと思いました。
- ・いざ勝負！
- ・ネットワークを、URA相互の交流と狭くとらえれば、必要であることに異議はない。しかし、組織構築であれば、対象はURA限定なのか、既存の研究支援者の組織との関係をどうするのか、運営費をどうしていくのか(研究大学強化促進費を援用できるのか)説明されないことばかりであり、ただちに賛成できる内容ではなかった。個人参加でありながら大学単位の支援を前提としたり、整合性が見えない。趣旨説明書は一般論であり、組織構築の課題が触れられておらず、大学としての意思決定には不足であろう。
- ・特に何も感じませんでした
- ・高橋さんの司会はいつ見てもキレがあって聞きやすい。それぞれの立場からスピーカーが話した内容は、結びのセッションとしてよかった。通して参加できなかったURAも十分理解できるわかりやすい話だった。
- ・柘植先生のURAインターフェースの可視化は参考になった。しかし、これはなかなか難しいとも感じた。例えば、ベストプラクティスの収集などから始めるのが良いのかもしれない。また、URAネットワークの話も大変参考になった。

- ・先行している他機関の考え方などが非常に参考になりました。URAネットワークは必要かとは思いますが、色々な思惑があるので纏めるのは結構難しいかなとも思っています。
- ・いま何故URAが必要なのか、本当に必要とされているのか、いつも原点に帰って考えていくべき。
- ・ポスター賞の設置はいいことだと思います。ポスターの優秀賞を主催者側で独占してしまわれた感があったので、今後は単純投票の集計だけでなく、審査員からの採点も加味するようにすればよいかと存じます。
- ・はじめからネットワーク有りの議論であるが、目的はあまり明確でない上、個人の集まりのネットワークなのか、大学組織としてのネットワークなのかで、運営の方法が大きく異なると思われた。
- ・ネットワークの役割が目指す方向性が少しでも分かった気がいたします。
- ・非常に重要な内容であったと思います。ただ、RA研究会の準備会での検討内容についても、もう少し説明頂けるとよりURAネットワークの重要性を実感できたようにも思いました。
- ・一定のネットワークの必要性は感じておりますが、今回、提案時に、現時点での賛同者名簿の発表はその他の賛同している参加者に対して少し配慮が足らなかったように思います。今から発起人を募集するというタイミングで、口コミで属人的につながった(ように見える)賛同者名簿は、ネットワークそのものが、いかにもボランティアな集合体であるかのような印象を与えたと思います。今回の参加者、特にURA整備事業や研究大学強化事業の採択校には事前に声をかけておくべきだったのではと思います。(お骨折りにいただいた関係各位には失礼の段お許しください。)
- ・柘植先生、田中先生のお話でURAの必要性がよくわかりました。
- ・要旨集の案内をしっかりと確認しておらず、まさか、柘植先生にお目にかかれるとは思わず、オーラも感じ、感激した。ただ、昨今の情勢からすると、個人の基礎研究に対する、また、基礎研究を主に実施する部局(組織)に対する公的研究費公募事業の採択・資金の獲得は、非常に難しくなってきたと思われるが、URAは、基礎研究もしっかり研究者に継続いただけるよう、支援する、ということも、大事なことではないか、と考えており、私自身、また当所属部署では、公的研究費以外にも含め、基礎研究の中の基礎研究を実施する研究者の資金獲得支援も、引き続き、力を入れていきたいと考えております。ネットワーク組織設立へ向けては、出来る限り、尽力させていただきたく考えております。
- ・今後設置されるネットワークによって、各機関が有機的に連携し、全ての参加校の研究力向上に繋がることを期待する。
- ・柘植先生からの、URAが「Σ型人才」として位置づけられていることに、大いに勇気をもらうことができました。また田中先生のネットワーク化に大いに賛同しますし、やはりURAの立場で、現場の苦しみを知っている田中先生にリードしてもらいたいと切に願っています。
- ・舞台の上が少々貧相でした。もっと意見交換のような事があったらよかったですと思いますが、それは「ネットワークについて考える」の方でなさっていたのでしょうか。
- ・高橋、飽きた。
- ・RA研究会は「URA」にこだわっていないので組織化に際しては理化学研究所や産総研なども射程に入れるというスタンスなのか、「URA」のみの組織化を考えているのかがはっきりしない。 とりあえずネットワークという組織の作り方はやむを得ないが、1年以内に方向性を明示しないと立ち枯れる。
- ・制度設計に関わられている偉い人の話よりも、現場のURAからのボトムアップ的にネットワークが必要！という流れの方が良かった気がします。(偉い方々には後から賛同の意を示す応援メッセージをもらう程度で)
- ・工学会長の先生のお話は確かに大所高所からのものだったが、今回のシンポジウムの総まとめとしてはもう少し身近に感じられるスピーチでもよかったです。URAネットワークの今後の動向に注目したい。
- ・柘植会長がURAに期待される部分はCDが補助事業期間で考えるべきことだったと考えますが、それをURAで塗りなおしただけでどうなるのかと不安に感じました。イノベーションが求められている立場からのコメントだと思いますが、実務者としてはイノベーションそのものよりもイノベーションを起こしやすい環境作りが大切と感じています。URAの存在意義は産学や知財で刈り取りばかりして土地が弱ってしまった畑を甦らせることであり、CDとの連携は重要であるものの役割を一にするものではないと思います。

- ・ネットワーク構築を自主的になしていこうという姿勢に共感した。
- ・ネットワークの運営主体がわからない。
- ・最後のまとめならば、各セッションのまとめ、総括を入れるべき。これからネットワークが必要だねーで終わってしまった。もう一段進んだABC案、提言、ビジョンがあったほうがよかった。
- ・RA-S01に始まって、URA整備事業(第1期)後のシンポジウム、研究会の継続のためのネットワーク化という方向への恣意的な誘導がひしひしと伝わってきましたが、URAは後発の本学としても、これからどのように積極的に関わっていくべきか、関わっていく余地があるか、検討してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

質問3

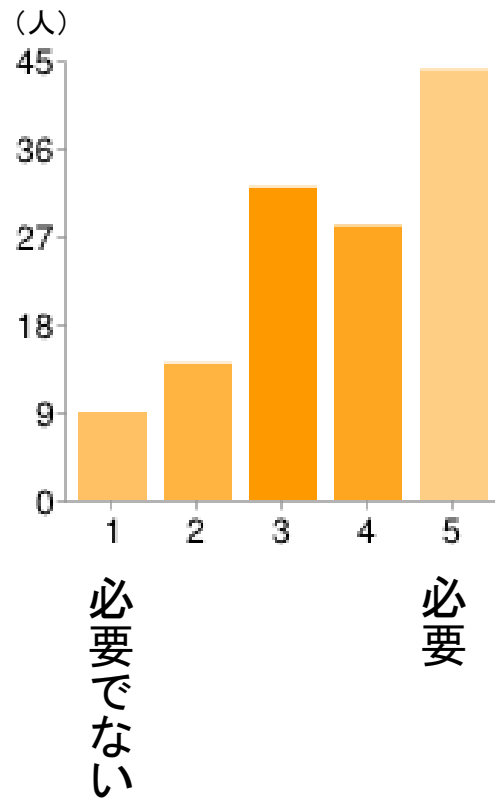
セッションとして取りあげたいテーマがありましたらお書き下さい。

- ・学際研究構築・推進等に関するマネジメント方法
- ・国際交流、学内起業
- ・アジアへの取り組み 国際的な立ち位置と活動の進め方 日本の論文数はなぜ停滞しているのか？また、停滞しているのはどの大学か、どの職位か、年齢層か？(突っ込んだ分析なしに対策は打てない。)それよりは出られなかったテーマの方に関心があります。
- ・取組んでいる「事業」について、URAがなにができるのか突っ込んだ話をしたい。
- ・文系と理系の研究文化を対比することで、両分野間のジェンダー・バイアスに強く関心を持つようになりました。次回はこのテーマを取り上げて頂きたいです。
- ・教育トラックの充実を望みます。特に、各大学での外部資金獲得事例やプロジェクト企画例を取り上げ、そこでURAがどのような役割を果たしたのか、といったケーススタディを増やしていただくと有難いです。独自ノウハウの流出は避けたいとすれば難しいことかもしれませんが。
- ・上手な業者の使い方
- ・概念整理や課題共有も必要ですが、実践例を積み上げていくこと、URAがいないと困るとどの大学の研究者も思うような存在になっていくことがこれから求められるかと思えます。概念整理や課題共有をするセッションは必要最低限にし、一般口演・ポスター枠を拡充してはどうでしょうか。そして、URAと名のつく人は全員が一般口演かポスター演題にて発表し、自身の事例について紹介すべきだと思います。お客さんで来てもらうのは事務組織や協力会社、FA、研究者であって、全URAが発表者になり、自身の取り組みを振り返る場にURA研究会はすべきだと思います。発表できない人は仕事をしていない、と見なされていいと思えますし、それでこそ、職能集団として機能するのではないのでしょうか。
- ・中堅規模大学の外部資金獲得好事例。(分野横断、他大学との連携、複数企業、自治体などのコンソーシアム構築など)・情報収集の実際(各省庁HPのチェックポイント、説明会、セミナーの有効活用、海外ファンド情報の集め方、など)
- ・競争的資金ではない、委託型の資金について、各省庁の体制の比較などの現状分析が欲しい。
- ・URAの役割の国際化への寄与。
- ・事例検討
- ・URA的な業務を企業として行っている(弊社)のような例もあると思えます。どちらかという雇用対策としてのURAという意識を持つてしまうので、そうではなく、URAという職能や機能はいろいろな形態で可能であることを模索できるようなセッションがあるとよい。
- ・特に思い浮かばない。
- ・自然科学研究機構のネットワークとの連携についてテーマをもっと掘り下げて、例えば、1. 研究戦略策定、2. プレ、3. ポスト、4. 産学官連携、5. 国際、6. 広報、7. その他など、もっと具体的な中身を議論したい。①学内ネットワーク構築のあり方(ハード面、ソフト面の両方を)②科研費獲得にかかるURA支援とJSPS評価体制について考える③URAの競争と共創について考える④大学における研究マネジメントナレッジの日本全体のアーカイビングについて考える⑤研究環境・場・雰囲気改善策について考えるなど、ちょっと考えただけでもたくさんあります。次回の大会では、半年以上前に、事務局からある程度の大きなコンセプトを提示した上で、一般からセッションテーマを募集してはどうでしょうか？
- ・産学連携におけるURAの役割、従来の職種との差別化や違い。COI-Sでの活動状況の紹介。
- ・URA天下一武道会、産連コーディネーター vs. URA・URAを募集している大学による人材募集アピール大会
- ・各部署に配置されてるURAと、大学全体の戦略立案を行うURAとの業務の違い。それぞれのやりがいなどを比較するセッション。各大学が考えるURA人材のキャリアパス
- ・URAの機関異動(転職)の可能性について、職種の人材流動性の観点から。

- ・RA-S05のように、各大学の研究支援の状況について発表があると、有意義だと思った。
- ・URAのキャリアパスなど
- ・URAの社会への浸透の方策や課題
- ・産学連携業務の好適事例などの紹介について
- ・同事業に関連する文科省のセッション・情報提供等についてもっと時間を取っていただきたいです。
- ・研究機関採用のURAに期待すること 研究機関全体の立場として、研究者からの意見として
- ・理系と文系の研究支援の相互連携
- ・私立大学URA
- ・研究力評価の取組 研究成果の発信(アウトリーチ)の取組
- ・見える化 事務組織改革
- ・「年間最優秀URA」の選考など。各機関より、代表が闘う。自薦、他薦あり。何を指標にしているかを、各自で申告。全会員の電子投票により決定。
- ・次回以降は各大学で成功したプロジェクト立上げ例などを紹介してほしい。今回は、まだ仕組みを工夫したという発表にとどまっていた。
- ・研究力の評価方法
- ・概念的なお話が多かったので、実務レベルのセッション、特に競争的資金の獲得の成功例など(各大学の秘密なところもあると思いますが)の講演があればおもしろいですね。

質問4

教育トラックは必要だと思いますか。



	人数	%
1:必要でない	9	7
2	14	11
3	32	25
4	28	22
5:必要	44	35

質問5

上記を選ばれた理由をご記入ください。

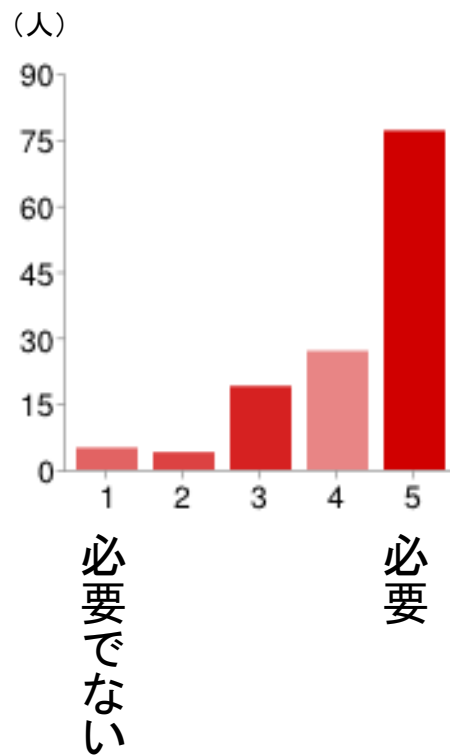
- ・科学技術政策のセッションに参加し、とても勉強になったので。
- ・最も持ち帰りやすい内容でした。
- ・教育、共有を通じて、共通理解がURAに広がることにより、URAとはなにかという定義、周知にも繋がる
- ・様々な経験、レベルの方々がいらっしゃるので、各分野の基本状況を理解する機会は今しばらく(少なくともURA及び類似職に係る研修体制が整うまで)必要と思います。
- ・よくわからない
- ・3月に実施された研修プログラムとほぼ同じないようなセッションもあったので、必ずしも必要ではないと思う。ただし、URAを理解しようとするURA外の方や、URAを目指す人のためには必要かもしれない。
- ・URAの水準が多様過ぎるから。
- ・駆け出しのURAは手探りであるため、参考になる話を聞ける機会は多い方が良いため
- ・URA体制が未整備(学内認識不足)な状況である学校が多々ある。その中でどうあるべきかを皆で共有できる場の提供にもなる
- ・URAのスキルの底上げに役に立つと思います。
- ・まだまだ黎明期
- ・これからURA活動の充実を考えていく大学にとっては、他大学におけるURA活動の背景、現状や研究者に必要な研究推進支援機能、研究推進支援に必要なスキルに関する情報は必要となる。また、最近の科学技術政策におけるトピックスや研究倫理など研究活動において必要な情報共有も必要と考える。
- ・参考にしたい
- ・多くの方が集まる機会なので、できるだけ議論や対話タイプのインタラクティブな方式を集めた方がいいのではないかと思います。初級者向けの教育トラックは、それはそれで重要なので、別の機会に設定することはもちろん必要です。
- ・新しい職種として雇用形態を確立するためには、実際にどのような段階で何ができる者になるのかを可視化が必要だと思います。可視化することで、教員、事務職員、一般の方々にも存在が客観的に認められていくのではないのでしょうか。
- ・毎年新しい方がはいてくるので。
- ・URAスキルの高度化が今後の課題であるため。
- ・URAの業務が固まっていないので、教育トラック的なものは必要だと思います。
- ・今後新規にURAとしての活動をする方が、徐々に増えてくるから。
- ・何を指しているかわかりません。
- ・ケース・ストーリーも重要だが、体系化された基本的知識の修得と表裏一体のもの。両方の充実が大切で、教育トラックにより、後者について効率的・効果的な修得が期待できる。
- ・RAとは？はあったほうが良いと思うが、その他については不明。
- ・全国のURAに等しく参加機会を与え得るシステムだから。
- ・URAの育成を効率的に行えるので。
- ・知りたいこと、興味のあるものに参加できるのでよい。
- ・新たな職業であり、プロフェッショナルとしての標準的なスキルセットを定義することが必要である。
- ・特に意見はないので、ニュートラルな3としました。

- ・ただ単にセッションを聴くだけでなく、一緒に考えることは重要かと思います。
- ・新しくURAになる人材がこれからも産まれるから
- ・一気にURAの数が増えたので、質を確保し、底上げするには有効だと思われる。
- ・一つしか出ていないですが、何をもって「教育」なのかが分からず、そういうものならいらないと思います。
- ・RAとして最低限身に着けておくべき共通なことはあると思うため。
- ・既にスキルのある方が、URA(=専門職)と思うから。
- ・教育は伝承としての機能があるため
- ・情報や知見を体系的に俯瞰できる点
- ・RA研究会としての企画としては、先輩が後輩を教えていくという図式が必要であることともに、いわゆる標準の教科書ができるわけであるからこれは継続すべきである。
- ・ほかのセッションとの並列は、参加者希望者にとり不便。やるなら、米国学会のように、前日などに教育セッションを集中させるほうがよい。
- ・URAとしては日頃カバーできない領域の勉強になる。一方、URA以外の人間の参加のきっかけになる。(実際、URAとは距離を置く知り合いの事務職員が参加していた。)
- ・前述の通り、URA研究会は概念整理・課題共有のワークショップと、各URAの発表で構成してはどうかと思います。教育トラックは夏期集中形式などで、別の機会にした方がいいかと思います。参加したいのに他のワークショップにも出なくてはならず、参加できない、というものがありました。
- ・非常に勉強になった。
- ・どれが教育トラックなのかわからない、ぐらいなので、なくてもいい。同じような話になるので。
- ・URAになったばかりの者にとっては、このような機会は貴重であると感じるため。
- ・当然では。
- ・少人数の大学では、独自には難しいため。
- ・教育トラックをいれるなら、固めて入れるのが良いのではないかと思った。教育トラックとそれ以外が並列だと、教育トラックへの参加が難しい。ワークショップのような形にする場合、教育トラックも面白いかもしれないが、あえて教育トラックをいれなくてもとも思った。
- ・申し訳ありません。「教育トラック」という言葉の意味がわかりません。
- ・教育トラックは重要ですが、詰め込み過ぎと感ずます。
- ・講演内容がどうしても一般的になるが、知っておくべきことを学ぶいい機会で、初心者のみならず、産学連携の経験者にとっても最新の情報を得るためにも必要だと考えます。
- ・教育トラックはあると集約されて便利だと思います。
- ・そのような機会はあまりないので
- ・しっかりとしたテキスト／マニュアルを作る契機となる。
- ・今後増えるURAのスキル向上のために必要であると思います。
- ・よくわかりません。
- ・URAの広報を兼ねて広い対象者に必要と思われる。
- ・色々な経歴のURAがいる中で、日本の大学のスタンダードな講義を行う必要はあると思うから。
- ・研究倫理を受講したが、基本的な知識の整理になったように思う。URAも経験者から初心者まで様々なので、特に研究会自体への参加者のレベルを限定しないのであれば、初心者向けがあっても良い。
- ・URAという職種はまだ黎明期で、着任して日の浅い人がほとんどですので、今後も必要かと思います。ただ、今回は興味はあったものの他のセッションを選択してしまったので、教育プログラム単体で開催していただけると助かります。

- ・早稲田の研修カリキュラムが立ち上がれば、基本的に不要なのではないかと思います。
- ・自分で学べ。
- ・URA人材育成の場として重要であるから
- ・教育の中身が全く見えないので。
- ・まずは体制構築と運用に関する点をフォーカスいただきたいです。
- ・URAのキャリアに不安を感じる人が多い。切磋する場をネットワークでも設けることが大事だと思う。
- ・一定レベルの共通理解は絶対に必要だと思う。
- ・この業務に新規に加わる人への教育機会を提供するため。
- ・今回教育トラックに参加しておらず、可否が分からない
- ・大学内におけるコンプライアンス、スキル標準、コミュニケーション力等の基礎教育の内容を充実させるため。
- ・実践あるのみ。教育というよりも責任ある立場での支援の実践。
- ・現場における詳細な支援事例の紹介がなければ厳しいと思います。
- ・今回参加しませんでした。
- ・どのような内容になるかに依存するため。
- ・早稲田で聞いた話とダブるのであれば必要性は薄いと思う。
- ・その場(セッション内)での教育的効果というよりは、そこで得た示唆や刺激を持ち帰ることが重要だと思います。その意味で、教育トラックを通じて、URA業務の様々な側面・フェーズに関する標準的な知識を得ることはとても重要だと思いますし、それは実務の現場では(業務に追われて)なかなかできないと思います。
- ・新しい制度であるので、その定着に向けても必要である
- ・若手が全体像を把握できるため。客観的な情報とベテラン講師の意見を纏めて聴くことができるため。
- ・新米URAには有効ではないか。
- ・今回教育トラックに参加しなかったため。
- ・初心者に対する良い教育の機会である。各大学でのOJTとは違った経験をする事が出来る。
- ・他にいくつも、URAを教育いただける機会が増えれば、不要かもしれませんが、現状では、教育を実施いただく貴重な会だと思うためです。
- ・RAが始まって日が浅いため、教育的な内容は必須。
- ・拝見しなかったので評価できません。
- ・参加していないので判断できません。
- ・教育目的のイベントは別に開催したほうがよい。(セミナー、研修会等)
- ・今後の業務の中で教育に関わる部分は出てくる可能性はあるが、我々URAの本文は「研究」支援であると理解している。
- ・教育トラックってなんですか？

質問6

ポスター発表は必要だと思いますか。



	人数	%
1: 必要でない	5	4
2	4	3
3	19	14
4	27	27
5: 必要	77	58

質問7

上記を選ばれた理由をご記入ください。

- ・講演等だけでは各大学の活動紹介に限界があるため。
- ・取組の要点を簡潔に知ることができ有効。
- ・ポスター発表は、口頭発表とは異なり、従事者と直接コミュニケーションがとれるため、有用性がとても高いと感じました。
- ・自機関の考えを纏める上でも大切であるし、様々な大学のコンテンツやデザインは参考になります。
- ・RAの“研究者”エフォートを担保する仕組みになりかねない……本業をおろそかにしないレベルであれば良いと思います。
- ・双方向で議論が出来る。相手の本年を引き出すことが可能。パネルディスカッションとかあるが、パネリストの自己紹介の時間になっており、得る物がない。また、本気の議論の場にならない。
- ・多くのURAに情報発信の場が必要だと思います。
- ・特定の興味とテーマについて交流が持てるので
- ・他校の活動状況がわかって良い。
- ・大変参考になる事例があったため。
- ・個別の発表について、じっくり質問が出来る。
- ・各大学の取組みが具体的にわかって良かった。しかし、アワードを作るなら、ポスター発表の時間(分プレゼンみたいな)をとってもよかったのでは。
- ・時間的な制約がある中で、各機関がアピール出来る場として有用であると思う。
- ・他大学の取り組み、状況を知るという意味で、大変有用であった。
- ・活気があり、おもしろい。対で聞くことによって、どんどん考えてもいなかった話が聞けたりする。
- ・URA同士の対話の場であり、情報共有のよい機会となる。
- ・他大学のことがわかる
- ・研究職に戻りたい若いURAの業績づくりとしてあってもいいと思うが、なくてもいい。
- ・直接話ができ、その後に展開つながるので、セッションよりポスターの方が重要。
- ・直接、URA同士の対話ができるから
- ・口頭発表のセッション数は、当然ながら時間的・物理的制約があると思いますので、その意味で、より多くの発表を可能とするポスターセッションは必要だと思います。また、より積極的な理由として、URAの能力として、このようなプレゼン資料のデザイン能力や作成スキルの上達や、他の発表者のポスターを見ることで新しいスキル・デザインを知ることができ、刺激を受けることができると思います。
- ・個人が自己の考えを発表できる場があることは望ましい。しかし、パラレルセッションを2日間で40セッションやれるようになってくると、ニーズは薄れるかもしれない。空いた時間にじっくりと見られたので良かったと思います。
- ・URA同士の対話の取っ掛かりとしては悪くないです。が、裏にセッションがあり、発表者が参加できないというのはどうかと思います。
- ・各大学の個別の話は講演よりもポスターの方が聞きやすい。
- ・研究成果を発表している人から、単なる組織紹介までポスターの内容のレベルがバラバラです。分析・研究結果と事例紹介に限るとかある程度はレベルを揃えた方がいいと思います。
- ・発表、第三者評価の場はある程度必要。ただシンポ、研究会は学会なのか、という感じもある。
- ・どちらでもいい気がするので。
- ・発表する側としては課題や実績を整理する場となり、また反応やご意見を聞く場、情報交換、人脈作りの場として有効かと思います。

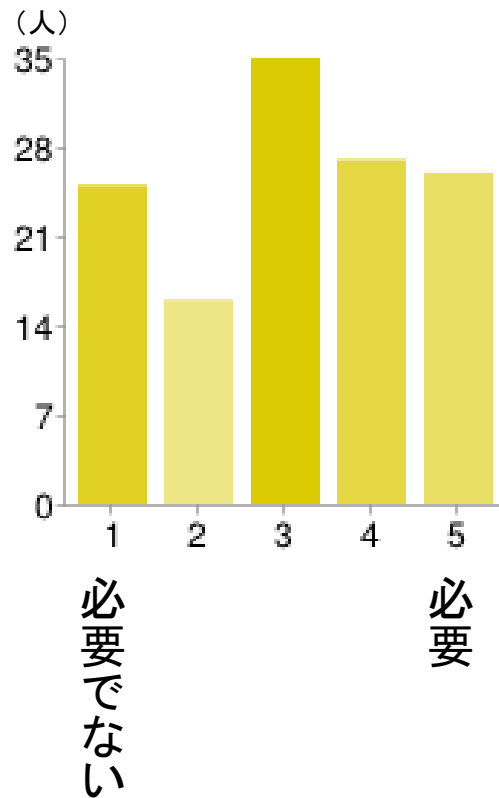
- ・ポスターにはURAの方々の思いや熱意が込められており、単なる支援パーソンではなく高い職能があるということをアピールできていると感じたため。次回は、縮小版を必ず配付していただければありがたいです。私のように背が低いと皆さんの間から覗くことになり、説明者の声は聞けませんが、ほとんど見えないので。
- ・学会のようなものとして考えれば、ポスター発表は必要だと思うが、今回のような発表であれば、必ずしも必要であるとは思わない(必要ないと云う訳ではない、あってもよい、程度に考えて下さい)。
- ・情報交換機会として残すことが望ましい。
- ・気軽に他機関の状況が分かるため。
- ・情報の共有化や、国内でのトライアル、URAスタッフの実態がつかめ大変役に立った。次回以降もぜひ進めて欲しいし、発表もしたい。モチベーション向上にもつながるよい取り組み。
- ・ここでの交流がもっとも印象に残っていて、ゴニョゴニョ話もできた。
- ・自分にとって関心がある内容があるかないかというところで。
- ・Q&AでURAのコミュニケーションが深まる。
- ・研究費を申請する際に、実績として書けるから。できればいずれ、査読を入れるようにして、一定以上のレベルになるようにしていくとよいと思う。
- ・非常に活気があったと思うので。もう少しゆったりとした空間で出来るといいのかもしれませんが。一人で複数件のディスカッションが物理的に難しいので、2つぐらいまでに制限するなどが必要かもしれません。
- ・口頭発表よりもじっくり議論ができ、ネットワークづくりも円滑に進みます。
- ・研究成果の発表とは意を異なる。
- ・同業者と意見交換するのにより場であるから。
- ・ポスターを展示するだけでなく、説明をしていただけるほうがよりわかりやすいと思います。ただ、展示会場に人が多すぎて発表をあまり聞くことができませんでした。
- ・情報交換するには、有効であるため。
- ・各機関の取り組みを互いに認識し、彼我の違いを参考に自機関の対応を向上させるために必須。
- ・他大学等の取組を知るという意味で活用したい。
- ・活動内容をみて、意見交換をしやすい各大学、各機関のURAミッションは異なるから。
- ・ポスター発表の盛り上がり、会期中一番良かった。2日間あったので、全体を半数に分けて講演時間を設けると、さらに相互の交流が深まると思う。
- ・口頭発表できる数は限られているため、ポスター発表の機会があるとよりOne to Oneで深い対話ができるので有意義だと思うから。
- ・採択校講演を短くたくさん実施するのでもよいのではないかと思った。
- ・ポスター発表自体は良いと考えるが、提供される情報量に対して内容を十分理解する時間が不足した。
- ・他大学の状況の概要がわかりやすい。
- ・他法人の動向は参考になる。
- ・他大学のURAと話すきっかけになるし、自分の仕事を振り返るきっかけにもなると思うので。
- ・全員が口頭発表の時間がないことと各大学のactivityの共有は有用だと思いますから。
- ・色々な取り組みについて知ることができるから 近い距離で話ができるから 各機関でのURAの個別の取り組み等、参考になります。
- ・相互研鑽、人脈作り等、得られる効果は大きい
- ・各研究機関の取組、なにを重要視しているかがわかりやすい。空き時間にみてまわれる。

- ・活動内容等の情報が得られる
- ・ポスター発表こそがURA同士がインタラクションできる最適な機会であるから短時間で様々な取り組みを概観できるという点でよい。現場に出張する意味もある。
- ・他機関の取組がわかって参考になるため。
- ・多くの大学の取組を短時間で一覧できるメリットは大きいと考えます。
- ・セッション間の空き時間に見て回ったが、充実した内容のポスターが多かったと思う。短時間で他大学の取り組みを知るのに効果的だと感じた。
- ・事例を知ることができるから。ただし、ポスターのコピーを用意していない大学が大多数であったし、説明者もいないポスターが多かったので、有益な議論にならなかったのが残念。
- ・今回は資料配布が無かったため有効でした。説明者が常時いらっしゃるようであればありがたかったです。
- ・参加者の話題提供の機会と情報共有の手段として
- ・実務者レベルでの取り組みが判るので。
- ・今回は業務時間の関係上、ポスター発表(夜間)とランチョンセミナー(昼休み)しか参加できませんでした。時間を気にせずに参加できるプログラムはありがたく感じます。ポスターの内容についても、様々な大学の取組が一望できて充実したものだったと思いました。ただ、私のようにURAの全体像や現状について知識がないひと(あまり参加者にはいないかもしれませんが)のために、それらをまとめた入門的なポスターが最初に一枚あると良いのではと思いました。
- ・さまざまな大学の事例が総覧できる。おそらく、多くのURA関係者が他大学の状況を収集したいとおもっている。
- ・他大学の事例が紹介されていて、デザインも含めとても参考になりました。
- ・講演のセッションが盛りだくさんだったので、ポスターをゆっくり拝見できませんでしたが、各大学の取り組みがよくわかりますので、今後も続けて下さい。
- ・学内で留まりがちな思考を外に向けることで、自分たちに足りないこと、自信を持っていいことを認識する機会になったので。
- ・各機関の取組状況を把握するため、紹介するためにも必要。URA個人、個人の活動の創意、工夫や活動の実態がよくわかり参考になりました。
- ・各大学の状況を把握できるので、必要だと思います。ただ、今回は人がとても多く、ゆっくり見ることができませんでした。。。(人が多すぎて酸欠ぎみでした。。。)
- ・各大学での取り組みがよくわかる。
- ・口頭発表では参加者に気兼ねして質問できないようなこともポスター発表では個別に質問できる。
- ・セッションにはなくても、個々の関心が発表されている場合もある。また、セッションでは時間がなく質問できなくても、対面で直接話を聞ける貴重な場である。
- ・自機関以外の方々と接触する機会にもなり、また、各機関様の取組を図、絵等で見ること、イメージもわきやすく、次回以降も、展示する側の方々は大変かもしれませんが、継続いただくのがよいと思います。
- ・他機関の取り組みを知ることができるのと同時に、その取り組み担当者に直接質問できる点。また、今後の関係を築くことができる点でも有用。ただ、定例で開催される場合、ポスター作成はやや負担。
- ・発表内容がマンネリ化している気がする。
- ・各取組や問題意識が啓発となり、意見交換の活性化につながると思います
- ・発表をすることは、自分の業務を振り返るきっかけにもなるし、他の発表を聞くことも参考になるから。
- ・各大学の取り組みを並べて見ることができるので、とても参考になった。

- ・交流するためのツールとしてポスター発表はあった方が良いと思うが、研究と違って前年との違い、他機関との違いを示すのが年々難しくなっているのではないか。
- ・くだらない
- ・現場における詳細な支援事例の紹介がなければ厳しいと思います。
- ・何を発表するのか、もう少し検討が必要かと思います。但し、面白い取り組みであると思います。
- ・URAが個人のスキルを磨くためにはURAによる個人発表の機会を拡大すべきだと思います。今回の発表は組織の取り組み紹介などが多く、個人の発案によりなされた事例などの紹介は比較的には少なかったように思います。全URAが個人の発案によって行った取り組みについて、リソースを共有するために発表する場を持つことが必要だと思いますし、それができないURAは職能集団に参加できない、といったくらいのことが必要だと思います。
- ・現場担当者との討論ができること
- ・URA全体の状況やレベルが分かるのであった方がよいと思います。
- ・交流と情報交換の場になるから
- ・情報交換の重要な場であることと、ポスターを作成すること自体、及び他のポスター見ること自体が、貴重な学習及びスキルアップの場であると思います。
- ・比較的気楽に参加できる
- ・全容を知ることができる。
- ・各大学の取り組みや、先進的事例を数多く発表していただくことによって、URAお互いのつながりを作る機会にもなる。
- ・直接意見を聞きやすく、場合によっては具体的に話をきけるのでよい。名刺交換もし易い。
- ・実際、オーラルより詳細な議論ができるため
- ・実務者が日々どのようなことをされているのかを知る良い機会と感じたため。
- ・会場は盛り上がり、参考にもなり、人的交流の場ともなった貴重なものであったと感じます。
- ・ポスターにURA募集の説明会の内容等を もりこんでいる機関があったが、就職活動もかねて参加しているという立場であれば 有益な情報であるが、ネットワークを構築するという、研究会自体の主旨に反しているのではないかと思った。

質問8

ポスターアワードは必要だと思いますか。



	人数	%
1: 必要でない	25	19
2	16	12
3	35	27
4	27	21
5: 必要	26	20

質問9

上記を選ばれた理由をご記入ください。

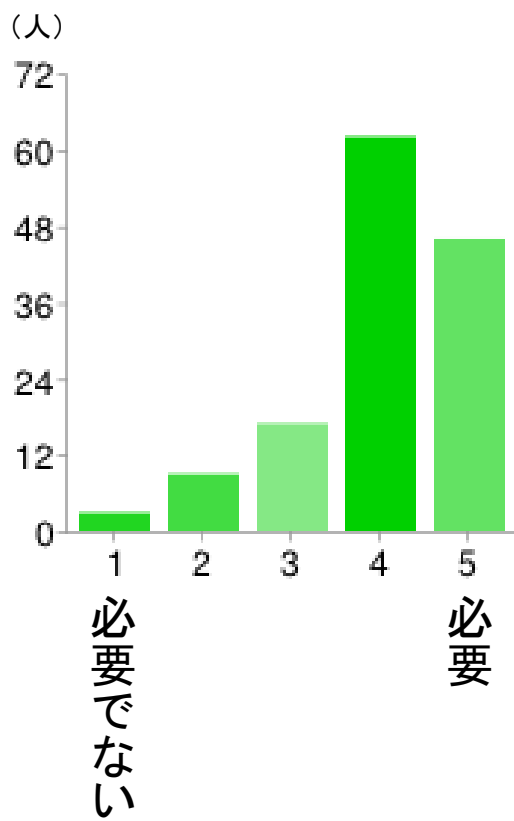
- ・主旨は理解できますが、特に必要性を感じませんでした。
- ・効果のほどが未だ良く実感できません。
- ・インセンティブは必要
- ・事前にアナウンスがあったほうが、より質や伝え方の向上につながったと思われる
- ・URA事業は、試験・研究ではなく、業務内容的なものであると思いますので、優劣をつけるのはあまり好ましくないとします。ただ、デザイン賞はいいと思います。私もポスターデザインを勉強したいと思います。
- ・あまりピンとこなかった。
- ・質の向上につながるとします。
- ・発表者のやる気がでると思うので。賞品もつければいいと思う。
- ・賞があることで、機関の励みにもなると感じたため。
- ・つつい自分のポスターに得点してしまうので
- ・どちらかというと不要である。ポスター発表の時間を長くした方が良い。
- ・ポスターの質を向上させることや、エンカレッジする意味でもよい取組かと思えます。
- ・ポスター発表者のモチベーションとしてアワードがあるのは励みになります。投票や選考方法は、少し検討されてもいいのではとも考えます。
- ・賞をあげるだけなら何のためにあるのか分かりません。
- ・参加しようとのモチベーション向上につながるため。組織票のように思えた部分もあるので、参加者それぞれが一票を持つことはそれはそれでいいのですが、別途、審査者および審査要領の設定もあった方がいいかもしれません。
- ・所属大学への投票を制限しないと、地元大学が圧倒的に有利になります。内容的、あるいはデザイン的に適正な評価とは言えないと思います。
- ・Web等でベストポスターとして紹介する等するのであれば、あったほうがよい。そうでなく、その場限りのものなら、なくてもよい。
- ・ポスター会場の盛り上げのためにも重要と考えます。
- ・必要だと思うが、組織票が入っているのではないかと疑われたので、それが排除されるようにする必要があると思っているので。
- ・研究職に戻りたい若いURAの業績づくりとしてあってもいいと思うが、なくてもいい。
- ・特にencourageする必要があるでしょうか、本テーマの参加者に。ただ、上記は特に強い意見ではなく、あった方がよいと云う方がおられるなら強い反対はありません。
- ・より良いポスターを作ろうとするモチベーションにつながる。
- ・取り組み内容については各大学の事情があるので、優劣を付けるべきではないと思われる。が、プレゼンテーションの面では、勉強になる。
- ・どちらでもいい気がする。
- ・投票であれば参加者が多い有利になるのでは。内容の審査を始めるとなると研究者支援人材が研究的になるのを懸念。
- ・モチベーションを上げるためにはよいと思う。ただ、人気投票的な印象があり、本当に優れたものが評価されているかどうかは疑問に思った。
- ・参加に対するモチベーションのアップ、またURAの評価にも繋がると思われるため
- ・発表者のモチベーション向上やスキル向上に貢献する。
- ・ポスターアワードが公開投票制であったのが良かった。人気の集まっているポスターに足を運ぶことができたため。
- ・業務に直接関係しない。
- ・賞を取ろうというモチベーションになる。

- ・あつたら、励みになると思う。
- ・何とも言えませんが、URA業務にプラスとも思われます。
- ・インセンティブを与える意味で効果的。
- ・それほど魅力的なポスターがあるとは思わなかったので
- ・特に興味が無い。
- ・評価項目が分かりやすいとよい。
- ・あると、モチベーションにつながると思います。あんまりゴリゴリするものではないかもしれませんが、こんどは、招待公演以外で各セッションのゆるめのアワードがあってもよいと思いました。
- ・ポスター作成者のモチベーションになると思うので。
- ・あれば励みになるが、なくてもそれほど苦はない。
- ・何らかの表彰制度はモチベーションを挙げるにつながると思います。選出方法については、今回のように参加者の投票方式でも良いかもしれませんが、そうすると開催校の票が多くなる可能性は否定できないので(開催校の参加者が多い)、選考委員による選出という方法もありかと思います。
- ・アワードとすることは、発表者のモチベーションアップにつながり、有意義なものと思います。ただし、アワードを獲得すること自体が目的化するような雰囲気にならないことを願います。(例えば○連覇達成等を必要以上にアピールしない等)
- ・研究支援業務に顕彰はそぐわない比較が難しいためあっても良いと思いますが。
- ・発表者のモチベーションアップにつながる。また、全ポスターを見る動機になる。
- ・表彰の意義がわからない。表彰をもとめて発表するわけではない。評価項目が不明で、どのように対応すれば、評価が高まるのか不明であり、メンバーに説明できない。
- ・どちらでも可。
- ・ポスターを作成するモチベーションになりますので、いいと思います。また、各ポスターをより理解しようとするにもつながるように思います。
- ・一定期間以上研究推進や産学連携に業務経験がある方が審査をするような枠があってもよかったかと思います。
- ・投票してもらった方が、作りが、やる気がでるから。
- ・主催者のアナウンスが足りないのか、参加者がくだらないと思っているのか、投票する人が少なかったように思います。
- ・あんな感じならやらなくてもいいかと思います。
- ・時間の関係で発表までいられなかったため。
- ・ポスター発表のモチベーションとして良い企画だと思う。
- ・よい試みだと思うが、早く帰りたいので、表彰式に出るのは面倒くさい。
- ・継続してポスター発表を行うのであれば、次回はみな何がしかの工夫をするはずだ。進歩がないものは、いずれ価値を無くし、不要なものになる。
- ・モチベーションが上がるから折角作成されたのだからあっても良いと思います。
- ・目的がわからない。
- ・URA体制は書機関の規模や特徴、研究領域その他、それぞれの特徴にあった独自のものであるべきとしている一方で、その体制や構築内容の発表に優劣をつける意味がないような気がする。
- ・評価の基準がわかりにくかったので投票できなかった。
- ・発表者のモチベーション向上につながるため。
- ・情報交換がメインになっていたように思うため。
- ・励みになると思います。

- ・投票数が少なかったので、効果を測るのは難しいかと。もう少し続けてみてはいかがでしょう。
- ・アワード取得が目的でないため。
- ・どちらでも.....
- ・どちらでもありません。
- ・励みになるし。
- ・「時間が足りずできませんでした」とのポスターがあったが、業務の中での負担が大きかったのでは、と感じた。
- ・楽しいし、レベルが高くなると思うので、あった方がよいと思います。
- ・現状では、参加大学も限られているので特に必要とは思わなかった。
- ・時間内で、全ての人と接するのは難しい。自分のポスターがどの程度、周りに伝わったか、ということが分かった方がよいのではないか。
- ・比べるべき問題ではないから。
- ・刺激になるのではないかと思う(参加者も真面目に見るので)。
- ・シール式は手軽でいいと思います。デザインと内容を別々に評価するのもいいアイデアだと感じました。
- ・ポスターアワードの有無より、各大学のURA体制や研究支援の取り組み状況を知るためだから。
- ・URA活動における発表の場のひとつとして評価できると考える。
- ・実際の管理運営を効率的に行うには必須を考えます。
- ・現場における詳細な支援事例の紹介がなければ厳しいと思います。
- ・ポスターアワードは相互研鑽のための素晴らしいアイデアだったと思います。
- ・主観的 やや組織票的な？ 感もあったので、審査の方法を再考すれば今後もあってもよいと思いました。
- ・ポスター発表者のモチベーション向上のためには、アワードがあった方がよいように思います。
- ・研究成果の発信もURAの職務の一つであると思うし、見やすい・わかりやすい資料を作成するのもそのうちのひとつだと思う。そのため、ポスター発表の中でよりわかりやすいものを作成した人(たち)を表彰することは、その人だけではなく、表彰されなかった人たちにとっても良いモチベーションになると思う。
- ・発表者のインセンティブに寄与し、ポスターを見せていただく側にとっても、どの発表を選ぶか考えることによって見る意識も変わってくると思います。
- ・意外と盛り上がった(ポスターをつくる意気込みが)。
- ・インセンティブになる。
- ・ないよりあったほうがよい。
- ・モチベーションが上がるのでいい取組ではないだろうか。出来れば自分の大学には投票しないルールが必要か？

質問10

本日のシンポジウム／研究会はお役に立つものでしたか？
また、その理由をご記入ください。



	人数	%
1: 必要でない	3	2
2	9	7
3	17	12
4	62	45
5: 必要	46	34

上記を選ばれた理由をご記入ください

- ・年に一度集まるという点で重要。しかし、ポスターセッションを見て各大学の取り組み自体は昨年度に比べて増えていても、参考になったかと言えば、疑問
- ・色々な考え方に接することで、モチベーションが上がるからです。
- ・種々の大学の取り組み状況を知ることができ、且つ、他大学URAと面識を持つことができた。
- ・人的ネットワーク、問題意識の共有、人脈の形成ができるため。
- ・思ったほど濃い内容ではなかった。期待はずれでした。
- ・シンポ、セッションの同時複数進行が残念です。
- ・このような大きなシンポジウムに参加することは初めてでしたので、全国の多くの大学からリサーチアドミニストレーターが集まって意見を交わされるという場に参加できてよかったです。
- ・日本でのURAという職種の実態がどのような状況なのかを肌で感じ取るいい機会になった。現場の声を聴ける機会もセッション中に充分設けられており、今後の参考にできる点多々あったと感じたため。
- ・コンプライアンスについての認識を強くもつことができた。
- ・URAを研究支援者として見た場合、どのような支援をしているのかが見えたような気がする。
- ・各種プレゼンいただいた内容は大変勉強になりました。ありがとうございました。ただし、資料が手元に残らないところが残念でした。
- ・他大学の取り組みや課題等が一カ所まで情報収集でき、所属大学の取り組みに生かす上で大変参考になりました。全国のURA関係者と情報交換ができた。
- ・こちらの所要により、当初の予定どおり出席できなかったため、最初の部分がよくわからないが、後半に関しては、従来からお聞きしていた内容もあったものの、他大学におけるURA活動の一端が垣間見れたことは良かった。
- ・URAコミュニティーの状況を肌で感じる事ができたため。
- ・課題共有のよい機会となりました。ネットワークの必要性を実感するきっかけとなったため 全国の方とお会いできた。
- ・特に参考になることはなかった。
- ・実際にセッションに出た当事者ですが、当事者は受身脱却ということで特に役に立ったと思います。
- ・今後は若手がどんどんセッションの発表に出て行くとうよいと思いました。
- ・他大学のURAと悩みが共有できたから 他機関の取り組みを知ると同時に、その取り組み担当者に直接質問できる点、また、今後の関係を築くことができる点でも有用でした。
- ・昔の同僚と情報交換できたことは役に立った。
- ・初期の頃はURAの業務がはっきりしておらず「ふわっと」した感じではあったと思いますが、URA事業採択校の取組が進んでいることなどもあり、実りある話が聞けたと思います。
- ・URAとして、活動しはじめたばかりだから初めての参加でしたが、他大学の取組やさまざまな情報を収集できて勉強になったため。やはりポスターのコピーをいただけなかったのが残念です。
- ・他機関でのURA制度の進捗状況の情報を沢山得ることができた。
- ・他大学の活動を知ることができた。
- ・内容が充実しており、非常に有意義なプログラムだったと思います。
- ・役にたったセッションもあったが、あまり役に立たなかったセッションもあった。

- ・全体として論点の軸が見えない。具体的にどうやって、それをやったのか、話を狭く展開してもらった方が有用な印象を持つプレゼンテーションが多かった。
- ・全国のURA人材が集まったからURAに関しての現状を知る上で非常に役に立った。
- ・今後のURAとしての業務におおいに参考になりました。
- ・本学はURA体制が遅れている中で、シンポジウム他大学との意見交換、情報共有ができる場であると位置づけている、是非次回も参加したい個人的な興味の差というものを勘案しても、内容の充実したものと、そうでないものの差があったのではないかと考えます。
- ・URAを取り巻く現状がよく理解できた。
- ・URA整備の大局や事例、また、雇用形態が重要なカギとなることそれを巡る様々な課題を知ることができ、有意義でした。
- ・懇親会の参加者の多さに圧倒されました。そこで、いろいろな方と知り合うことができ、各大学で行っている研究マネジメントの一部を知ることができた。
- ・他の参加者との関係もでき、自機関以外の各機関様の実施内容も様々知ることができ、多くの方々の考えも知ることができたので、大変有益であった。今後の活動の参考にしていきたいと考えております。
- ・他大学の多様な取り組みを知ることができた。
- ・勉強になった。
- ・日本の大学・研究機関が置かれている状況がよく分かった。また一部のポスター、ランチョンセミナーから世界の状況も垣間見えた。自機関の取り組みが決定的に遅れているように思っていたが、必ずしもそうではないことがわかり、次に何をすべきかを把握できた。
- ・情報等が得られた為。
- ・自身は博士後期院生であり、URAの名前や概要は知っていたものの、詳細や現場の方の声を聞いたのは初めてであった。学位取得後の進路の一つとしてURAに非常に興味を持った。
- ・他大学等の現状および取組を知ることができるため。
- ・URAの現状が大学、立場で様々なことが理解できました。
- ・全てのセッションに参加できなかったのが、マイナス1としました。ただ、参加したセッションについては、とても良かったと思います。
- ・合同大会ということもあり、初めてお話をさせていただく方が多かったので良い機会をいただいた。
- ・ポスター発表の時間と重なっていたため聴講できないセッションがあったのが残念だった。
- ・他機関の活動状況を知ることができたから。
- ・URA同士の繋がりも持つことができたのは収穫。
- ・いろんなURAと話せた
- ・異なる組織での実務につき理解が得られた。
- ・報収集できたので。
- ・情報収集する場が他にないため参加者間の交流が出来るため。
- ・国、FAからの最新情報、各大学のベストプラクティスを知ることはいかに参考になる。
- ・文科省、主要なURA推進者の講演や意見が聞けたこと
- ・これからURA制度を立ち上げるに当たり、現在取り組まれている大学の情報はとても助かった。
- ・2日目しか参加できませんでしたので。
- ・新参者で、まだ未知数だから
- ・自らの課題に近い実践をしているURAを知ることができ、参考になった。
- ・日々・の業務、問題意識の相対化、URA全体に対する立ち位置を考えるのに役立った。

- ・他の機関の取り組みについて情報、示唆があることは有意義であるため URAと図書館の関わりを探るという点では、じつはあまり収穫はありませんでした。実際、ポスターのなかで「図書館」という単語は見つけられなかったのです。一番関係しそうなのは、京大の、人文系URAのポスターだと思います。ただ、URAの全体像や現状についてぼんやりながらもイメージができたことや、URAIについて熱心に考えている人たちをたくさん目にするのができた点は有意義だったと思います。また、図書館員というURAと協働可能性のあるポジションで仕事をしながら、「URAIには何ができるんだろうか？本当に必要とされているんだろうか？」と考えを深めている途中の私にとって、いろいろな悩みを抱えながら取り組んでおられる姿を垣間見ることができたことも、印象強く残っています。上述のとおり、物足りない点もありましたが、このような職業ネットワークは情報共有には大変重要な機会だと感じています。今回開催にお骨折りいただいた関係各位には感謝申し上げます。
- ・具体的な取組事例等の情報が得られなかった
- ・特にファンディングエージェンシーとの対話良かった。日本版 FDP の再構築が出来ればと思う。
- ・文科省のURA事業に採択されていない大学では、情報がやや不足することもあり、今回のシンポジウムでは非常に情報収集という意味で意義がありました。
- ・最新の状況が判りました。主として教育トラックを聴講しましたが、他も時機を得たテーマでどちらのセッションを選ぶか迷うテーマで、必要な情報を得ることができました。
- ・1日しか参加できませんでしたが、大変良かったと思います。特に、各大学で活躍しているURAを垣間見ることができ、また情報交換をすることができた点がとてもよかったです。
- ・業務に役立てられそうな、こういうシンポジウム/研究会だからこそ得られたと思えるような情報がなかったからです。それでも3なのは、そこに集まってきた人たちと話せたからで、無料でなければさらに評価は下がると思います。
- ・URAネットワークの形成に向けた機運が高まったように思います。
- ・参加者が多いこともあり、全体的によかった。
- ・今回のシンポジウムは内容の構成に偏りがあったかもしれない。
- ・URAの感覚というものの共通する点、各大学で異なる点をつかめたように思う
- ・他大学の取り組みについて、参考になったため。
- ・自大学のURA制度の見直しに関して、他大学の情報が得られた。
- ・初めて参加しましたが、似たような悩みを抱えていることを知れて、不安が少し軽くなりました。
- ・URA制度の理解から、将来展望までが理解でき、どのようなサービス提供が可能かを検討するキッカケになったため 普段抱えている課題の解決に対するヒントが多数ふくまれていたと感じました。
- ・現在、学内に本格的な研究支援組織改革を進めているため、他大学のプラクティスは大変勉強になった。
- ・各大学間の連携において、お互いを知るよい機会である。全てを聞くことはできなかったが、URAの機能としての問題点、URA個人としての問題点などが共有できた。
- ・研究者のなりそこないの傷の舐めあいだから。
- ・現場における詳細な支援事例の紹介がなければ厳しいと思います。
- ・様々な取り組みがあり、日本の大学に最適化されたURAシステムを考えるうえで、ベンチマークの参考となり、参加してよかった。
- ・初めての参加だったので非常に勉強になった。
- ・各大学のURAミッション、体制の考え方が分かった(「システム整備」等から) 参加したセッションは大変興味深く、また全国のURAおよび類似職の方々との接点を持てたことは大変有意義でした。
- ・モヤモヤを共有できました。

- ・様々な組織の、様々な立場にあるひとたちと言葉を交わし、各々の考えを聞くことができたから。
- ・個々の課題に関する解決はなかなか聞けない質問1に回答したような情報を効率的に得ることができたため。
- ・参加者が500名で、懇親会にも多数参加されていて、この分野への大きな期待を肌で感じることができました。
- ・URAの現状が多少理解できた気がします。
- ・他の方の考え方、国内の流れを把握することは重要と考えるからです。
- ・自己の大学を紹介できた良い機会だったので総体的には役に立ちましたが、食い足りない感も残ります。同時進行の発表やセッションが多く、部分的にしか参加できないのが残念でした。
- ・参加できたセッションが少なく、あまり全体を見るまでにはいたらなかった。

質問12

今後このようなシンポジウム／研究会にどのようなことを希望しますか？
また、何か不都合等、気が付いた点があればご記入ください。

- ・上記にも書きましたが、同時企画が多すぎた気がするので、URAシンポジウムとRA研究会を同時に開催すると盛りだくさんすぎる気がします。2回に分けて参加の機会を増やした方が。また、URA実務者の実際の業務や課題に関して、もっと話を聞く機会が欲しかったです。
- ・2年近く、このようなシンポジウムや研究会を行っているので、これまでのまとめあげたものを作られたらいかがでしょうか。毎回、毎回、同じような講演、議論、会話で、時間的に無駄と感ずることが多くなっています。
- ・私のように直接URA業務に携わっていない者は、遠方での開催になると参加できない(あくまで趣味・就職活動の扱いであり、研究の一環や出張扱いできない)ので、資料のWEBでの閲覧やミニシンポジウムの各地での開催、支部による半日程度の勉強会+交流会があると助かります。
- ・ポスター発表などに力点を置いたほうが、本音ベースの議論ができるような気がします。
- ・過去の議論の積み重ねが上手く活用する方法を考えている。今後、内輪の話になっていくことを危惧する。「URA以外の」「実務家」との「形式的でない」意見交換する場を作ることができれば有益だと思う。
- ・URAの人材育成や情報交換・収集等の場として、活動を継続していただきたい。
- ・URAも事務系、研究支援系、知財系と区分されるようになっていこうかと思う。今回は混在した中での発表であったが、各系での対応状況について考える場、特に事務系URAとなっている者、同様な業務に従事している者等、今後整備を検討する大学には関心が高い内容ではないかと思う
- ・今後も開催を希望します。
- ・外部への会としてのアプローチ、広報活動。
- ・公開可能なプレゼン資料を提供したいと考えております。データでの提供(ダウンロード)又は返信用封筒同封での紙媒体資料提供は可能でしょうか。(特に下記4)を希望)「希望資料」1)RA-S01 2)RA-S03 3)URA-L01 4)URA-PS01 5)URA-S01~07
- ・教育セッションはやりたいですね。
- ・国立大学中心とならないとよいかと思います。
- ・一般的な研究学会のような位置づけで、今後もURAカンファレンスとして継続していただきたいです。運営のために年会費を取るのもいいと思います。
- ・特になし
- ・要旨集が要旨になっていない。今後Web上でのパワーポイント(資料)の公開を希望します。交通費をかけて参加して少し不満が残った。年に関東で一回、関西で一回の開催がよいのでは(交通費がかかるため)。できれば週末開催がよいのでは。
- ・当日の受付に長蛇の列になっていた。受け付け方法の見直し等、ご検討ください。
- ・希望します。
- ・大学での検討上、有意義な資料となるので、当日の発表レジメを事前にデータ配信していただけるととても有難いです。ホームページに掲載等をしていただくと、情報共有という点でもよいのではないのでしょうか。後日となる場合でも結構ですので、是非よろしく願います。
- ・文系対応。研究の実績のないものとしてのURAの在り方。
- ・URA取り組みの現状 今後も多くの事例や意見が出る環境を提供して欲しい。
- ・シンポジウムと研究会を別日にしてほしい。
- ・キャリアアップやURAだけでなく研究全体の長期展望も含めた検討会
- ・ポスター発表会場のコーヒーとお菓子がおいしかったです。ごちそうさまでした。あまりこういった学会形式のイベントに参加したことがなかったので、とても新鮮でした。

- ・企業のRA類似職の活動紹介やポスターが欲しいです 参加者がより当事者意識を持って参加できるような仕掛けやデザインができればと思います。
- ・資料などをアブストラクト集としてまとめて欲しい。
- ・URA及び類似職の増加と、経験年数等の差異により、参加者の層が広くなると思いますので、基本的内容と応用的内容それぞれのセッションが必要になってくるように思います。
- ・(率直に意見しました。あらためて失礼の段お許しください。)あと、懇親会ですが、知り合いで固まって情報交換も有意義ですが、新たなネットワーク構築が重要かと思います。そのため、強制的に交流させられるルールやイベントもあって良いと思います。(例えば、参加証にテーブル番号を入れ、最初はそのテーブルに付くとか。)
- ・希望します。
- ・運営をしていた業者の中で、文句を言いながら仕事をしていた人がいたので、この業者は使わない方がいいかもですね。
- ・今回同様、「旬のネタ」についての議論などができればよいと思います。その際、新しくURA組織を立ち上げる機関や新しくURAになる人も参加しやすい雰囲気やセッションを残して置くとうまいかと思います。
- ・研究会の発表内容にレベルの差があったような気がする。しかし、URA業務を広く浸透させるにはこのようなシンポジウム／研究会は必要と思う。
- ・くだらない戦友を増やして、自分を正当化するような暇があるくらいなら、真面目に仕事してください。税金の無駄使いにしか感じません。
- ・参加したかったセッションに入れなかったのが残念だった。
- ・各地方持ち回りで行ってもよい
- ・人が多すぎるのと、その割にセッションに幅がない。結果、質問する時間がなく、問題意識を共有しにくい。
- ・不都合ではないし、よく分かりませんが、なんとなく、登壇者の方が固定化しているのではないかと思います。参加者が増えれば変わってくるかもしれないが。
- ・セッションが多いわりに、どれも登壇者をたてすぎ、参加者との議論にまで至っていなかった印象がある。
- ・セッションの作り方や参加者の満足度を高める工夫が必要である。・研究会主催者がどのような意図をもって各セッションを位置づけているのかわかる資料があるとよい。
- ・URA事業採択校の報告義務の場として、シンポジウムだけやればよい。RA研究会は、若手の勉強の場として、業務ごとに細かく分けて分科会形式のWSにして、別開催にしたらい。申込が遅かったというのもあり、希望のセッションに一部参加できなかつたり、同じ機関から参加したものが重複して同じセッションに参加することになりました。可能であれば同じ機関から参加した者が重複しないような振り分けにしていただければ幸いです。
- ・全体的に消化不良の感がある。主催側が何をしようとしているのかよく分からない一面を感じる。
- ・いわゆるマネジメント側にいるURAだけで行うのセッションとか、セミクローズな打ち合わせとか。
- ・興味のあるセッションが並行して行われていることが多かったです。ポスターの要旨は当日以前に欲しかったです。各地の大学で行われている勉強会やセミナーで人気のあった講師を推薦していただいてそこから教育セッションの講師をセレクトし、スペシャルピックでお話しをお願いされてはいかがでしょうか。
- ・イベントの開催をもっとPRして欲しい。セッションの定員制を工夫していただきたい。
- ・今回のURAシンポジウム、RA研究会のスライド資料等はどこかに掲載される予定はあるのでしょうか。基本的には、スライド資料(論文やレジュメでも)は配布されるべきだと思います(事前に電子的に配布するかたちでも良いと思います)。
- ・皆が参加できることを考えると、分科会セッション数を増やすことが必要と思います。それに応じて、1つのセッション時間を短くする(たとえば1時間以内)、セッションの分類などの工夫も必要と思います。NORDPは1日半で22セッションを設定していました。

- ・私はリサーチサポートディビジョンに所属していますが、仕事内容はどちらかというと事務職員なので、研究に深く携わっているわけではないのですが、全体的に各大学がどのような取り組みをしているのか、大学のネットワークがどのようなものなのか、を体験できてよかったです。
- ・専門職の集まる場なので、個々人のスキルアップにつながるような実践的な内容、トレーニングプログラムのようなセッションを入れることができたらよりよくなるのではないかと思う。ポスター発表の時間を長くした方が良い。
- ・セッションを産学連携、国際連携、研究力強化、制度改革などのセクションに分けて開催してほしい。また、マルチな職掌を考えると、今回聞きたいセッションが重複していたので、参加できるよう工夫してほしいと思った。
- ・URA職のインセンティブ、キャリアパスに関する議論の場を増やしてほしい。
- ・現在は組織論が多く発表されているが、今後は、実業務の話や国への要望等、URAの発展に向けた議論等ができるような場になると良いと思う。
- ・ポスター発表を1~3min.弾丸口頭発表をすることにしようか？前回の名古屋シンポでの企画、とても良かったと思います。
- ・私どもの様なサービス提供会社なども巻き込んだ会にすることは可能でしょうか。単なる賛助会員ではなく正式なメンバーとして。
- ・JSPS、JST代表の講演を期待。URAの定義をはっきりさせること。また、administrationは事務を指す英語だから、managementを示す語を職名として選択するべきである。
- ・こういう会を開く際にはどうしてもそうなるものだが、おそらく主催者側の同僚や知人だけにセッションをもつよう働きかけたり、ポスターを出すよう促したりしていたのだと思う。親密な人同士だけではなく、少し疎遠な機関や産学コーディネーター・URAにもセッションをもってもらおうよう工夫すれば、内容がもっと広がるのでは。
- ・時間配分の問題であるが、もう少し質疑応答の時間を増やしてもよいと思う。懇親会は重要なので、次回からも設けてほしい。
- ・くどいようですが、発表pptのhand-outを会場で配布(あるいは事前にWeblicupなど)されると非常に理解(事後の記憶・記録)に役立つと思います。
- ・運営をどうしていくか
- ・シンポジウム／研究会で発表された資料が欲しい。
- ・イベント疲れしてます。同様のイベントは当分不要です。
- ・セッションにおいて、あらかじめ参加者の情報(属性や人数構成)が知らされているとよかった。例えば登録制セッションにおいて、出席者の属性情報について、登壇者側だけでなく会場全体で共有されていると、セッションへの臨み方もかわっていたのではないかと思う。(個人の識別ができない程度でいい。登壇者側に情報があるのならセッション開始時にその情報を開示してもらおうなど) 関心や得意分野ごとによりネットワークを強化できるような仕組みがほしい。
- ・最新の情報、取り組み事例を知ることのできる場として、引き続き継続していただきたい。
- ・現場における詳細な支援事例の紹介ほしいと思います。セッション時間が短い。また、進行が決して上手とはいえないセッションが多かった。
- ・内容は十分満足できた。些細な点だが、クロークはあったほうがよいと思う。
- ・希望します。今回のシンポジウムについては、日程、プログラム内容とも充実していた部類だと思います。ただ、参加したいプログラムが重複するなどジレンマを感じたのが少々残念です。
- ・参加者の数が一気に増えたにも関わらず、非常にスムーズで遺漏のない運営・進行がなされており、本当に、心の底から、叫び声をあげたいくらいに、感心しました。今後もこのレベルを維持できるのか、少し不安を感じますが、ぜひ今後も、今回のように、多様なステークホルダーが一同に介して意見交換をする場を提供しつづけて欲しいと感じました。
- ・初参加で知り合いが少ない人でも他機関の方と交流できるような仕掛け(懇親会とは別に)があるとうれしい。研究系の学会と比べると、新たな知見が年々増えるわけではないので、毎年同じような発表を繰り返すようになって参加者が減ったり、同窓会的な意味のみの会になってしまう可能性があるのも、毎年内容を工夫する必要があると思う。

- ・3会場でセッションがあり、どのセッションに参加するか選ぶのが大変でした。URAが特定のスキルのみ求められているのであれば、(例えば、国際担当、とか)自身に必要なセッションのみ選んで参加できるのですが、現段階ではマルチなスキルを求められているように思いますし、だとしたら、あまり複数でセッションを走らせるのはすぐわないように思いました。ワークショップ的な講演は1会場のみ(もしくはURA整備事業との2会場)とし、その他は全部がポスターでもいいかと思えます。URA研究会はURAの課題とリソース共有の場であると同時に、URA組織とURA個人の紹介の場(URAにとっては自己研鑽の場)で、他のURAや事務組織や研究者の方にURAの活動を知ってもらおう場とすべきだと思います。
- ・RA-S07「行列のできるURAお悩み相談室」は、面白い企画だった。URA体制立ち上げ期を過ぎてフェーズが進めば、また違った問題が出てくる可能性がある。できればシリーズ化して続けて欲しい。
- ・教育トラックは Beginner Intermediate Advanced 等のレベルわけをしてはどうか? 当日ハンドアウトがなくて PPTの字が小さくて見えないものが多かった。まずは開催ありがとうございました。お疲れさまでした。懇親会があつて良かったですが、大勢いる中で、名札だけでは自分をご挨拶や話をしたい人がどこにいるかわからなかったのも、そのあたりがうまくマッチングできる仕掛けがあると更に良かったと思えます。
- ・また参加したいと思います。さらにお願ひするならば、課題を持ち合つてスモールグループで意見交換するような場もあるととっても嬉しいです。
- ・是非参加したい。

質問13

日本のURAネットワークについて、ご意見・ご感想等ありましたらご自由にお書き下さい。

- ・国立大学本位にならないように祈ります。
- ・既存の事務組織など、"URA"という名称を使わずに研究支援をしている人との連携を常に考えていただきたいと思います。また、URAの自己研鑽の場として、職能集団として機能するネットワークになってもらいたいと思います。
- ・URAネットワークにより、URA研鑽の場を広げてほしい
- ・今後、URAのキャリアパスを考える上では、ネットワークは必要と思います。
- ・いまいち、日本のURAネットワークの存在意義について必要を感じませんでした。ロースクール難民のように、URA難民を増やさない対策なのかなと。
- ・必要かと考えます。田中先生が示された将来像の共有や、独立運営の可能性などについても議論が必要かと思えます。
- ・各大学がURA雇用に向けて独自に取り組んでおり、URAの職務も色々あるのが現状であると思う。URAネットワークができることで情報共有できることは大変好ましいと思う。ネットワークに参加することで、参加者にメリットがあるような仕組みになれば素晴らしいと思う。
- ・他国のものはほとんどわかっておりませんが、いくつかご紹介のあったとおり、日本のものも、自前で、国との間で、依存しない、適度な距離感を保ちつつ、進めていくのがよい、と考えます。
- ・現段階では、URAの各機関での定着を目指し、可能な限りオープンな情報交換を進めることによって、各URA・組織のレベルの底上げし、各機関での実績の蓄積(URAの信頼の獲得)を進めるのがよいかと思えます。URA(研究支援)のレベルで機関間で争うのではなく、URAによって、どの機関でも均質に(方法は異なれど)研究の支援が行われる中で、研究の中身のレベルでの競争が促進される方が、日本の競争力アップに資すると思えます。
- ・折角なので、UNITT等既存のものとはことなるコンセプトを打ち上げられたらいいように思います。
- ・今後がまだ見えない。
- ・お陰様で今回はたいへん勉強になりました。どうもありがとうございました。
- ・大事なことだろうとはなんとなくわかるが、まだ具体的な意義・意味・目的がわからないので、今後それがクリアになるとうれしい。
- ・URAの本来の目的は、日本の研究力向上にあると思いますが、その役割をきちんと果たすことができ、はじめてURAという職が認められると思います。今の段階ですと、それが明確な指標としてわかりませんが、5年後、10年後に必ず評価されます。そのときに、日本の大学にURAという職を設置したことが日本の研究力向上に寄与したという証明ができなければならないと考えます。その部分を将来、どう証明するかをこのようなURA研究会やネットワークで議論すべきではないでしょうか。それによって、現在の業務に動機づけがはっきりすると思います。URAを定着させるための議論をするのではなく、研究力向上の実績をどうつくるのかの議論が必要です。
- ・準備する側は大変ですが大きなものと、ブロック毎の支部みたいなものがあれば良いかも。
- ・ネットワークを作ることが目的になってしまわなければいいなと思います。
- ・職能団体として、早急に組織されるのが良いと思います。
- ・URAという職種が日本のアカデミアに根付くための基盤になればいいと思う。業界全体のリーダーシップをとる人がもう少し多く現れればいいのにと感じるので、その契機になることを願っている。
- ・ネットワーク化により機関におけるURA認識を高め、大学の競争力を高める工夫が出来れば、国全体の研究力向上に繋がる。是非ネットワークを図り研究力向上に寄与していただきたい。

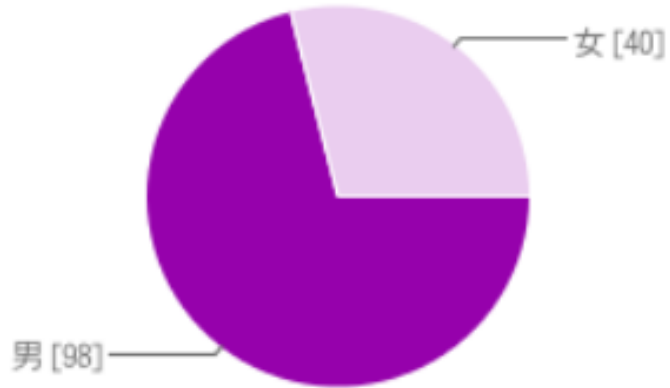
- ・個人的にはネットワークは賛成ですが、各大学の思惑などがあり、うまく行くのか少し疑問です。
- ・日頃の業務、求人情報について情報交換できる場だと良いと思います。
- ・URAの名称をはずし、イノベーション人材のようにした方が良いのではないのでしょうか。CDもURAもプロパー職員も関係なく、民間企業の方も盛り上がった方が。早期の実質化を期待します。
- ・URA活動の更なる発展を願っています。情報交換、意見交換の場としてのネットワークは必要だと思いますが、まずは、緩い集まりで開始した方が好いのではないかと思います。
- ・URAを実際に利用する側の教員、研究員等がもっと参加していると、より濃密な議論ができると思いました。ネットワーク化すること自体が大事なのではなく、ネットワーク化により何ができるか、またはURA及び類似職にとって必要な事を円滑に行う事が大事かと思います。
- ・組織対象と個人対象について整理が必要。発起人の例を見ると個人対象のように見えるが、組織がきちんと加わらないと運営上問題あると思います。
- ・前述ですが、誰が主体で何のためにネットワーク化するのか、もう少し明確になるとよいかと思いました。
- ・賛成です。
- ・ネットワークだからこその活動をしていきたい。
- ・産学連携コーディネーター、NEDOフェロー、科学技術コーディネータ等のこれまでの大学での研究支援類似職の人々を包括したネットワーク作りを希望いたします。
- ・総論OK.RA各人がプロフェッショナルとして能動的に活動して初めてネットワーク形成が必要と思われる。労働組合的なネットワークであれば必要なし。
- ・大学間、大学内における先生間、大学と企業などの関係を構築する上で、URAネットワークは必須。まずは、採択校同士でのネットワーク化を強化して情報量を増やしていきたい。
- ・URAネットワークは研究支援力を底上げすることで健全な競争環境を実現し、日本全体の研究力を向上させるためにあるべきです。基礎的な研究支援事例は共有し切磋琢磨し高めあわなければ、国民の科学技術への不信感も払しょくできませんし、その結果、基礎的研究経費の確保も、競争的資金の増額も訴えられません。自分の大学に良かれと思うコンプライアンスも度が過ぎれば却ってその大学のためになりません。URAの定着をネットワークの目的とせず、日本全体の研究力の向上の報酬と考えてはいかがでしょうか。
- ・ボトムアップの繋がり、継続性を重視したい 個人的には応援したい。ただ、機関所属でとなると、動きづらいのが正直なところ。
- ・外部にネットワークを求める前に、まずは大学内部を固めることが、先決ではないでしょうか。
- ・定量データが見てみたい。全国のURAがどの程度、在籍し、どのような仕事を主にしているのか、を知りたい。せっかくネットワークを作るのであれば、そういったデータも蓄積したらよいのではないか。
- ・なし。
- ・研究者のサポートの範囲を明確に定義しないとURAは便利屋になってしまいます。いまほどの大学もURAの構築中なので範囲を模索中とは思いますが、スキル標準の作成と合わせて、範囲を明確にすべきと考えます。またサポートしすぎると、研究者の自主的な能力を低下させることになるかもしれません。自治体のサービスと同じように、公助でやるべきものと、自助努力でやるべきものが互いに補ってこそよいサービスになるのではないのでしょうか。
- ・早くこの制度が定着し、安定した雇用が確立するため、このネットワークが貢献できることを期待いたします。
- ・URAという形に拘らず、研究事務全般を共有するイメージでネットワークを考えることで、使えないネットワークで終わることがないと思いました。人によって、URAの仕事の範疇があまりに違う印象を持ったため。
- ・ガタガタ、うんちくをたれているくらいなら、アメリカの制度をそのまま持ってくれば？ 学会のような体裁を持つことには賛成 セッションを聞いていないので、意見はありません。
- ・行政側への第3の職種の処遇や、日本の科学の方向性についての強い提言ができる団体とその情報交換の場になるといい

- ・今後益々発展することを期待します。
- ・企業の者であるため、URAネットワークの発起人には適してはいないとは考えるが、発足すれば、積極的に参加し交流を図っていきたい。その場合はご連絡をいただけるとありがたい。
- ・日本でのURAは、まだまだ発展途上であるので、各大学で時には協力し合って、URAシステムをよりよいものにしていければ、今後の魅力ある仕事として、次世代の若い学生さんのキャリアパスになれると思います。今後ともみんなで盛り上げていきましょう！
- ・ネットワーク作りは必要。なぜか？若い人が多数参加している。(コーディネータ事業は年寄りばかり)したがって、単に情報交換や愚痴を言い合う場ではなく、ユニオンとしての機能を持たせることが必要。基調講演や、セッションで、「モチベーション」や「評価」が議論となったが、サラリー、キャリアパスを自分たちで作りに上げる仕組みとしての運用が不可欠であると感じている。このままでは、5年後には皆職を失う。これでは、国際競争なんてできるわけがない。自分達のこと(社会)は自分たちでつくる気概が必要。URAをジョブワーカーとして、仕事に対する評価、対価を決めていなくてはならない。労働組合としての機能をネットワークに求めることが必要だと思う。
- ・ネットワークの名前にmanagementを意味する英語を入れること。ただし、administrationという業務を排除するものではない。Japan Association of Research Managers and Administratorsという名前をリコメンドします。
- ・ぜひ立ち上げていきましょう。
- ・URA制度の将来的な確率・普及には、URAの全国的ネットワークは必須だと思います。今後のURAネットワークの活動に期待するとともに、積極的に関与できればと思います。ネットワークが流行期にあるようです。今回のシンポジウム+研究会が切っ掛けで、分野別URAネットワークの構築のスタートアップに、ささやかながら貢献できたのではないかと考えています。
- ・日本の場合、構造的に大学を「経営」とか「効率的」という観点で見ている職員は非常に少ない(イノベーション創出の最先鋒の大学研究者を支える事務職のセンスが鈍いのは致命的)。そもそも楽だから、安定しているから、という観点で大学に就職している事務職のDNAを変えることは難しいので、いかにURAが仕事を適切に進めることができるかは、統括なり、管理職の立場にある人間がどれだけ既存勢力と戦えるか、かつ、それを上層部が支援できるかにかかっている。URA自体の研鑽だけでなく、URAを受け入れる事務職組織への研修やわかりやすい情報提供などを同時に検討してほしい。
- ・RA研究会設立メンバーが主導するようなネットワークなら、必要ない。学長・理事クラスが参加するネットワークならあっても良い。10年程前に、米国の知財～TLOの構造を、日本に持ち込もうとしても一部はうまくいかず、特許申請・維持にかかわる経費支出は、特許料収入などを上回る状況が続いている。URAおよびネットワークは日本の大学に定着するものになるよう期待している。
- ・必須このアンケートについての感想:自由記述が多すぎるように感じます。もう少しユーザフレンドリにしてください。
- ・ネットワーク構築は重要だとも思うが、機関間の人材の引き抜きや就職活動の場となってしまうのを危惧する。それで優秀な人材が他機関にいることをみつけることができるが、弱い機関は人材を引き抜かれる危険性があるとおもう。ネットワークの必要性は強く感じます。私もぜひ参加したいと思います。(質問の趣旨とズレてしまい、申し訳ありません)URAは、博士課程満期退学者・修了者のキャリア・パスの一つだと考えております。従って、事務職員よりは研究者(研究員)に近い処遇が必要ではないかと考えられます。特に今日の午後のセッションで言及されたことに共感を覚えました。・URAの仕事について、クレジットをつけること・免除職の対象にすることまたURA採用の条件として、博士課程満期退学者・修了者を優先して頂けると有難く存じます。
- ・研究支援業務は大学だけの話ではないのでUNITTとの連携や、類似職も取り込んだネットワークにして欲しいです。
- ・ただの馴れ合いの集団にはならないよう、建設的な議論の場を定期的に設けられるようなネットワークにしてほしい。
- ・必要と思った人たちが自発的にネットワーク形成を目指せばよい。まずはMLでも何でも立ち上げればよい。なんとなく政策誘導を期待しているような雰囲気もあり、違和感があります。今の進め方では、早晚、形骸化するのではないかと危惧します。

- ・URAは、大学行政管理学会や産学連携学会などに参加して、どのような議論が起こっているのか学ぶべきだと思う。科研費申請率アップの取組は、大学行政管理学会の研究推進・支援研究会でも盛んにノウハウ共有をやっているし、産学連携学会では事例発表を通じた情報共有を進めている。ネットワークのもっと目的をはっきりさせるべきである。ただ繋がれば良いという物では無いと思う。共有できるところは共有して、日本の大学全体の底上げをしてほしい。
- ・現在URAと冠しており、大学のRAであることが前提となっているように見えるが、大学以外の研究機関に広げる必要はあると思う。大学と研究機関では置かれている状況が大きく異なり、相互理解が難しい面はあると思うが、日本の研究力向上を考えるためには一体としての取り組みは不可欠と考える。
- ・業界団体など、目的や方向性を明確にするのが望まれる。
- ・日本のURAにとって、この5年間は非常に大切な時期だと思います。ぜひ、連携して盛り上げていければと思います。
- ・UNITTを参考にする、場合によっては下部組織となることも検討しては。
- ・育ってほしいです。せっかくの優秀な人材がもったいないので、キャリアパスの構築も気にかけてほしいです。
- ・建前は賛成であるが、実際どのような運営を行うのか見えない。世話役でもう少し煮詰めていただきたい。
- ・URAは発展途上の肩書であり、すでにそのようなお仕事をされていてURAという肩書でない人もいらっしゃいます。私はたまたま機会があってURAを名乗っていますが、URAネットワークを通じてより幅広く日本や地球規模の研究力強化の切り口から情報を共有できる仲間が増え、その人々がURAを名乗りたいと思ってもらえることを切に願っております。

質問14

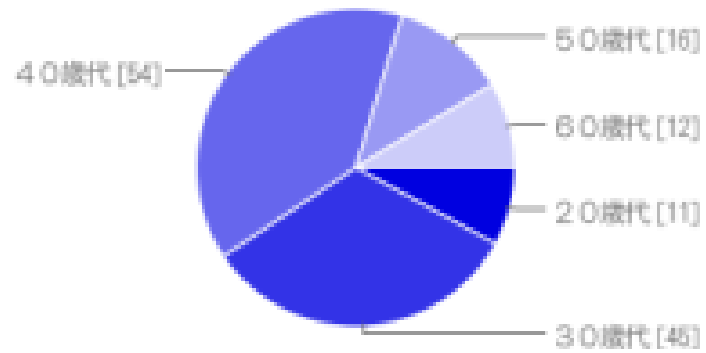
性別について教えてください。



性別	人数	%
男	11	8
女	45	33

質問15

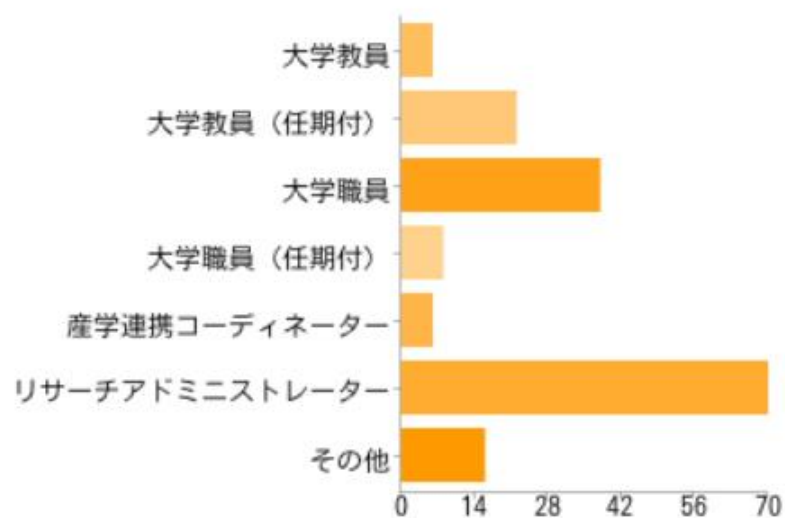
年代について教えてください。



年代	人数	%
20歳代	11	8
30歳代	45	33
40歳代	54	39
50歳代	16	12
60歳代	12	9

質問16

現在の職種について教えてください。(複数選択可)



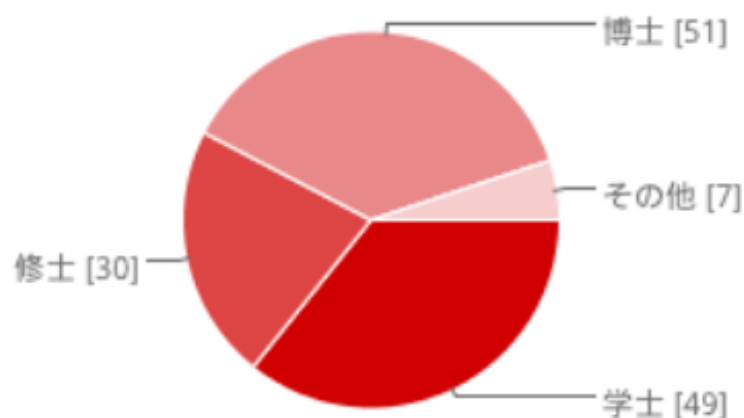
職種

人数

職種	人数	割合
大学教員	6	4%
大学教員(任期付)	22	13%
大学職員	38	23%
大学職員(任期付)	8	5%
産学連携コーディネーター	6	4%
リサーチアドミニストレーター	70	42%
その他	16	10%

質問17

現在の学位について教えてください。



学士	49	36%
修士	30	22%
博士	51	37%
その他	7	5%

質問18

差し支えなければ現在大学に勤務されている方は、その大学名をお聞かせください。

首都大学東京 東京大学 明石工業高等専門学校 山口大学 東京医科歯科大学 広島大学 東海大学 金沢大学 名古屋大学 熊本大学 大阪府立大学 京都府立医科大学 奈良工業高等専門学校 名古屋工業大学 宇都宮大学 学校法人兵庫医科大学 神戸大学(12/1より) 福島大学 岡山大学 順天堂大学 京都大学 徳島大学 琉球大学 筑波大学 早稲田大学 農業生物資源研究所 国立大学法人電気通信大学 東北大学 東京農工大学 テスト大学 新潟大学 同志社大学 東京理科大学 テスト 国立大学保偉人 名古屋工業大学 福井大学 株式会社早稲田総研イニシアティブ 私立大学 信州大学 国立情報学研究所 来年より、神戸大学